

金融改善ニ關スル請願 (特別報告第五三號) 沿岸漁業振興ニ關スル請願 (特別報告第五四號) 水産物利用振興ニ關スル請願 (特別報告第五五號) 漁村經濟更生施設擴充ニ關スル請願 (特別報告第五六號) 漁船保險制度創設ノ請願 (特別報告第五七號) 有畜農業獎勵費豫算計上ニ關スル請願外五件 (特別報告第五九號) 帝國陸海軍ニ齒科軍醫設置ノ請願外一件 (特別報告第六〇號) 郡山市ニ地方裁判所支部設置ノ請願 (特別報告第六一號) 知取町ニ區裁判所設置ノ請願 (特別報告第六二號) 郡山區裁判所管轄區域擴張ノ請願 (特別報告第六三號) 鴨島町ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第六四號) 東北地方ニ少年審判所及矯正院設置ノ請願外一件 (特別報告第六五號) 谷外村ニ三等郵便局設置ノ請願 (特別報告第六六號) 西島村ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第六七號) 越來郵便取扱所昇格ノ請願 (特別報告第六八號) 海事行政ノ統一ニ關スル請願 (特別報告第六九號) 老朽船舶ノ解體及外船輸入許可ニ關スル請願 (特別報告第七〇號) 船舶職員法並附屬法令改正ノ請願 (特別報告第七一號) 藝備鐵道買收ノ請願外一件 (特別報告第七二號) 越美線速成ノ請願 (特別報告第七三號) 長町、青根間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七四號) 平、小名濱間鐵道敷設ニ關スル請願 (特別報告第七五號) 高田、六日町兩驛間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七六號) 柳原踏切ヲ架道橋ニ變更ノ請願 (特別報告第七七號) 新市、東城間ニ省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第七八號) 第二期林野治水事業實施ノ請願外二十一件 (特別報告第七九號) 產婆法制定ノ請願 (特別報告第八〇號) 兵役義務者及療兵待遇改善急施ニ關スル請願

以上ノ報告書ハ昭和十一年五月十六日議長ニ提出ス

(特別報告第八一號) 戰公傷痍軍人優遇ニ關スル請願外一件 (特別報告第八二號) 祭祀禮典振興ニ關スル請願 (特別報告第八三號) 警察官吏待遇改善ニ關スル請願外一件 (特別報告第八四號) 小作法制定ノ請願外二件 (特別報告第八五號) 新宮川治水應急施工ノ請願 (特別報告第八六號) 「チブドマリ」漁港修築ノ請願 (特別報告第八七號) 高島町ニ漁港築設ノ請願 (特別報告第八八九號) 國有林野解放其ノ他ニ關スル請願外一件 (特別報告第九〇號) 國有林野原木拂下代引下並交付金増額ノ請願 (特別報告第九一號) 國有林野特賣ニ關スル請願 (特別報告第九二號) 頓別村ニ農事試驗場支場設置ノ請願 (特別報告第九三號) 山村住民救濟ニ關スル請願外一件 (特別報告第九四號) 和歌山縣ニ防潮林造成施設實施ノ請願 (特別報告九五號) 高知縣防潮林施設助成ノ請願 (特別報告第九六號) 德島縣ニ於ケル防潮林施設助成ノ請願 (特別報告第九七號) 陸海軍人待遇改善ニ關スル請願 (特別報告第九八號) 大正十二年法律第五十二號試驗資格者救濟ニ關スル請願 (特別報告第九九號) 鳥栖町ニ區裁判所設置ノ請願 (特別報告第

一〇〇號)倉敷市ニ區裁判所設置ノ請願 (特別報告第一〇一號)田總村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第一〇三號)小學教員待遇改善ニ關スル請願 (特別報告第一〇四號)古關村ニ郵便局設置ノ請願 (特別報告第一〇五號)檜枝岐村ニ三等郵便局設置ノ請願 (特別報告第一〇六號)雌雄島村ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第一〇七號)苦前村上平驛附近ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第一〇八號)喜界村嘉鐵校區ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第一〇九號)田皆郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第一一〇號)日橋川各發電所堰堤ニ魚道設置ノ請願 (特別報告第一一一號)電氣工事人無資格認定ニ關スル請願 (特別報告第一一二號)根室、擇捉間命令航路開始ノ請願 (特別報告第一一三號)海難ニ基ク船員ノ業務上過失處罰ニ關スル刑法規定改正ノ請願 (特別報告第一一四號)太東岬ニ燈臺施設ノ請願 (特別報告第一一六號)橋本、新宮間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第一一七號)後免、室戸間鐵道ヲ室戸岬迄延長敷設ノ請願 (特別報告第一一八號)上富良野、吹上間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第一一九號)根北鐵道敷設速成ノ請願 (特別報告第一二〇號)佐用、智頭間鐵道速成ノ請願 (特別報告第一二二號)札沼線釜谷臼驛設置ノ請願 (特別報告第一二二號)新庄村ニ簡易停車場設置ノ請願 (特別報告第一二三號)北千住、龜有兩驛間五反野南町ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第一二四號)川越村大字田津ニ簡易停車場設置ノ請願 (特別報告第一二五號)西之表ヨリ浦田及

島間ニ至ル區間ニ省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第一二六號)名瀨ヨリ古仁屋、笠利及龍郷ニ至ル區間ニ省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第一二七號)札幌、小樽間省營自動車線延長ノ請願 (特別報告第一二八號)兵役義務者及廢兵待遇改善急務ニ關スル請願外四件 (特別報告第一二九號)第二期林野治水事業實施ノ請願外一件 (特別報告第一三三號)藝備鐵道買收ノ請願外一件 (特別報告第一三三號)上ノ山、中村間鐵道速成ノ請願
以上ノ報告書ハ昭和十一年五月十九日議長ニ提出ス

(特別報告第一三四號)天照皇大神祭日制定ノ請願 (特別報告第一三五號)皇紀二千六百年記念事業實施ノ請願 (特別報告第一三六號)皇室用御饌料田設置ニ關スル請願 (特別報告第一三七號)伊弉諾神社ノ社號ヲ神宮ニ改稱ノ請願 (特別報告第一三八號)村社高千穂神社昇格ノ請願 (特別報告第一三九號)縣社穗觸神社昇格ノ請願 (特別報告第一四二號)赤川、大山川合流口切替工事施行ノ請願 (特別報告第一四三號)三隅川改修ノ請願 (特別報告第一四五號)救瀨設備擴張促進ニ關スル請願 (特別報告第一四六號)職業紹介所國營ニ關スル請願 (特別報告第一四七號)現行廣告物取締ニ關スル法令改正ノ請願 (特別報告第一四九號)頓別河口改修促進ノ請願 (特別報告第一五〇號)天鹽河口修築ノ請願 (特別報告第一五一號)中頓別村ニ農事試驗

場支場設置ノ請願 (特別報告第一五二號) 震災復舊國庫借入金償還延期ニ關スル請願 (特別報告第一五三號) 煙草耕作者救済ノ請願 (特別報告第一五五號) 鬼怒川上流ニ灌漑用貯水池設置ノ請願 (特別報告第一五七號) 加藤谷川流域荒廢林地復舊工事國營施行繼續ノ請願 (特別報告第一五八號) 豐橋市外三郡内原野國營開墾促進ノ請願 (特別報告第一五九號) 國有林野拂下ノ請願 (特別報告第一六〇號) 野間池漁港修築完成ノ請願 (特別報告第一六一號) 小湊港船溜完成ノ請願 (特別報告第一六二號) 口ノ永良部島ニ漁港築設ノ請願 (特別報告第一六三號) 西南方村秋目ニ小漁港築設ノ請願 (特別報告第一六四號) 一湊漁港修築ノ請願 (特別報告第一六五號) 下屋久村安房ニ港灣築設ノ請願 (特別報告第一六六號) 西之表町浦田ニ船溜築設ノ請願 (特別報告第一六七號) 中種子村熊野ニ小漁港築設ノ請願 (特別報告第一六八號) 知覽町松ヶ浦ニ船溜築設ノ請願 (特別報告第一六九號) 海洋漁業ノ改良發達ニ關スル請願 (特別報告第一七〇號) 宍道湖岸鹽害救済對策ニ關スル請願 (特別報告第一七一號) 種子島ニ種馬所分廐設置ノ請願 (特別報告第一七二號) 蠶絲業組合法中改正ノ請願 (特別報告第一七三號) 外國米輸入禁止ノ請願 (特別報告第一七四號) 高湯溫泉保護ニ關スル請願 (特別報告第一七五號) 震災保險法制定ノ請願外一件 (特別報告第一七六號) 鑛業法中改正ニ關スル請願 (特別報告第一七七號) 元屯田兵ニ一時金支給ノ請願 (特別報告第一七八號) 佐世保市祇園町陸軍火藥庫移轉ノ請願 (特別報告第一七九號) 佐世保區裁判所及刑務所支所改築ノ請願 (特別報告第一八〇號) 大宮村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第一八一號) 海老町ニ區裁判所出張所設置ノ請願外一件 (特別報告第一八二號) 南種子村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第一八三號) 鹿兒島高等農林學校ニ獸醫科設置ノ請願 (特別報告第一八四號) 肝付兼重公ノ事蹟ヲ國定教科書ニ採録ノ請願 (特別報告第一八五號) 鳴澤村ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第一八六號) 今和泉村大字池田ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第一八七號) 南種子村大字西之ニ無集配郵便局設置ノ請願 (特別報告第一八八號) 吉川村ニ無集配郵便局設置ノ請願 (特別報告第一八九號) 古布庄村ニ無集配郵便局設置ノ請願 (特別報告第一九〇號) 北村郵便取扱所ヲ集配郵便局ニ改定ノ請願 (特別報告第一九一號) 在所郵便局ニ集配並電話事務開始ノ請願 (特別報告第一九二號) 新改郵便取扱所ヲ無集配郵便局ニ改定ノ請願 (特別報告第一九三號) 日豐線急行列車運轉開始促進ノ請願 (特別報告第一九四號) 品川、鶴見間貨物專用線ニ客車運轉其ノ他ノ請願 (特別報告第一九五號) 諫早、佐世保兩驛間ニ「ガソリンカー」運轉開始ノ請願 (特別報告第一九六號) 高知、天坪兩驛間ニ「ガソリンカー」運轉開始ノ請願 (特別報告第一九七號) 延岡、日ノ影間鐵道完成年度線上其ノ他ノ請願 (特別報告第一九八號) 木原線全通工事促進ノ請願 (特別報告第一九九號) 氣仙沼、前谷地間鐵道豫定線變更ノ請願 (特別報告

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第八項 請願 一七七

第二〇〇號)播備海岸鐵道敷設ノ請願 (特別報告第二〇一號)本郷、今福間鐵道速成ノ請願
 (特別報告第二〇三號)釜石港ニ臨港鐵道敷設ノ請願 (特別報告第二〇四號)上士幌線速成ノ請願
 (特別報告第二〇六號)岩國、萩間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第二〇七號)北濃、城端間鐵道敷設ノ請願
 (特別報告第二〇九號)石見村大字下石見ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第二一〇號)八橋濱驛ヲ簡易停車場ニ變更ノ請願
 (特別報告第二一一號)新改信號所ヲ簡易停車場ニ變更ノ請願 (特別報告第二一二號)旭田村大字落合ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第二一三號)岡山驛ニ裏口乗降場開設ノ請願
 (特別報告第二一四號)水沼郵便取扱所移轉ノ請願 (特別報告第二一六號)第二期林野治水事業實施ノ請願
 以上ノ報告書ハ昭和十一年五月二十日議長ニ提出ス

(特別報告第二二〇號)藝備鐵道買收ノ請願 (特別報告第二二一號)恩給法中改正ニ關スル請願
 (特別報告第二二二號)質屋取締法中改正ノ請願 (特別報告第二二三號)千代川河口改修ノ請願
 (特別報告第二二五號)荒川改修工事促進ノ請願 (特別報告第二二六號)甲子川治水工事施行ノ請願
 (特別報告第二二七號)豊川改修ノ請願 (特別報告第二二八號)豊橋港修築助成ノ請願
 (特別報告第二二九號)羽幌港修築ノ請願 (特別報告第二三〇號)俱知安町ニ稅務署設置ノ請願

(特別報告第二三二號)營業收益稅法中改正ノ請願 (特別報告第二三三號)延滯利息引下ノ請願
 (特別報告第二三三號)玉蜀黍關稅戻稅實施反對ノ請願 (特別報告第二三四號)香川縣ニ國立鹽試驗場設置ノ請願
 (特別報告第二三五號)南高來郡內煙草耕作地擴張ニ關スル請願 (特別報告第二三六號)米穀自治管理法施行ニ因ル米穀商ノ損害補償ニ關スル請願
 (特別報告第二三七號)「マオラン」事業ニ對スル警告解除ノ請願 (特別報告第二三八號)燒津漁港修築ノ請願
 (特別報告第二三九號)蠶種國家管理其ノ他ノ請願 (特別報告第二四〇號)長崎縣ニ國營種畜場設置ノ請願
 (特別報告第二四一號)戰公傷病死者遺族ニ對シ祭料下附ノ請願 (特別報告第二四二號)俱知安町ニ區裁判所設置ノ請願
 (特別報告第二四三號)刑務所ニ於ケル武道具製造販賣廢止ニ關スル請願 (特別報告第二四四號)國民教育ニ關シ勤勞主義採用ノ請願
 (特別報告第二四五號)戰公傷病死者遺族子孫ノ小中等學校ニ於ケル授業料免除ノ請願 (特別報告第二四六號)町村立小學校舍新增改築費國庫補助法制定ノ請願
 (特別報告第二四七號)小學校教員俸給全額國庫支辨其ノ他ノ請願 (特別報告第二四八號)澁川村字二本柳ニ無集配郵便局設置ノ請願
 (特別報告第二四九號)長田郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第二五〇號)北村郵便取扱所ヲ集配郵便局ニ改定ノ請願
 (特別報告第二五一號)濱村郵便局ニ集配事務開始ノ請願
 (特別報告第二五二號)電氣事業市町村營ニ關スル請願 (特別報告第二五三號)吉坂村

役場ニ電話架設ノ請願 (特別報告第二五四號) 出產貯金法制定ノ請願 (特別報告第二五五號) 靖國神社參拜ノ戰公傷病死者遺族ニ鐵道船舶無賃乘車船許可ノ請願 (特別報告第二五六號) 貸切自動車事業法制定ノ請願 (特別報告第二五七號) 俱知安驛ヨリ定山溪溫泉及洞爺湖溫泉ニ至ル區間ニ省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第二五八號) 喜多方、米澤間鐵道速成ノ請願 (特別報告第二五九號) 山川、枕崎間鐵道速成ノ請願 (特別報告第二六〇號) 盛、釜石間鐵道速成ノ請願 (特別報告第二六一號) 常磐線北千住驛地下道開鑿ノ請願 (特別報告第二六二號) 只見、小出線起工ニ關スル請願 (特別報告第二六三號) 羽幌、朱鞠內間鐵道速成ノ請願 (特別報告第二六四號) 瀧根村ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第二六五號) 八鉾村ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第二六六號) 肥前旭驛ヲ普通停車場ニ昇格ノ請願 (特別報告第二六七號) 若松驛構内操車場ヲ藤ノ木棧橋ニ移轉ノ請願 (特別報告第二六八號) 鹽町驛ニ一車積貨切貨車取扱開始ノ請願 (特別報告第二七〇號) 國有林野解放其ノ他ニ關スル請願 (特別報告第二七一號) 兵役義務者及癡兵待遇改善施設ニ關スル請願外三件 (特別報告第二七二號) 震災保險法制定ノ請願以上ノ報告書ハ昭和十一年五月二十二日議長ニ提出ス

(特別報告第二七五號) 濱益港ニ船入潤築設其ノ他ノ請願 (特別報告第二七六號) 酒稅從價率實施並酒稅低下ニ關スル請願 (特別報告第二七七號) 立石ニ貯水池築設ノ請願 (特別報告第二七八號) 山川町ニ國立水產試驗場分場設置ノ請願 (特別報告第二七九號) 今和泉村大字利永ニ無集配郵便局設置ノ請願 (特別報告第二八〇號) 上麻生郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第二八一號) 新潟縣振興電力會社法制定ノ請願 (特別報告第二八二號) 上野、稚內間列車ニ一等車連結ノ請願 (特別報告第二八三號) 白鳥、城端間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第二八四號) 内海線起工ニ關スル請願 (特別報告第二八七號) 第二期林野治水事業實施ノ請願以上ノ報告書ハ昭和十一年五月二十三日議長ニ提出ス

昭和十一年五月二十四日議事日程ヲ變更シテ右各請願特別報告ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長坂東幸太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ請願特別報告ニ付キマシテ、委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告申上ゲマス、請願委員會ハ去ル五月五日ニ第一回總會ヲ開會致シマシテ、委員長及ビ理事ノ互選ヲ行ヒ、委員長ニハ不肖私ガ當選シ、理事ニハ戸澤民十郎君、林平馬君、西田郁平君、林讓治君、宮澤清作君ガ御當選ニナリマシタ、次イデ第二回ハ翌五月六日ニ開會致シマシテ審查方針ヲ決定シ、二分科ヲ設定致シマシテ、第一分科主査ニハ佐藤謙之輔君、第二分科主査ニハ小高長三郎君ガ當選セラレマシタ、而シテ總會ヲ開クコト前後八回、第一分科會ガ二回、第二分科會ガ二回開會致シマシテ、合計十二回ノ開會デアリマス、本日マデニ受理シマシタ件數ハ七百四件デアリマス、委員會ニ於キマシテハ紹介議員ノ出席ヲ求メ、之ニ對スル政府ノ所見竝ニ其實事ヲ十分ニ徵シマシテ、慎重ニ審議致シタノデアリマス、其結果採擇スベキモノト決定シタルモノガ六百十三件、政府ニ參

考トシテ送付スベキモノト決定シタルモノガ八十四件、本院ニ於テ採擇スベキモノニアラズト議決シタルモノガ二件、審議未了ニ終リタルモノガ六件デアリマス、處理件數ガ受理件數ヨリ一ハ十一回デアリマスガ、請願受理件數ノ最モ多キニ上リマシタノハ、第三十六回議會デアリマシテ、實ニ千二十七件デアリマス、今回ハソレニ亞グノ多數デアリマスケレドモ、ソレニモ拘ラズ主査、理事並ニ委員諸君ハ非常ナル御熱心ヲ以テ努力セラレ、此成績ヲ收メタル點ニ對シマシテハ、深甚ノ敬意ト感謝ヲ表シマス、以上申上ゲマシタ採擇ニ決シタルモノハ、本日ノ日程中請願第一ヨリ第二百八十八マデニ至ル特別報告トシテ掲ゲタモノデアリマス、何卒慎重御審議ノ上、委員會ノ決定通り採擇ニ御賛成アラシテ御願申シマス、以上簡單ニ御報告致シマス

院議異議ナク右請願各特別報告ハ委員會報告ノ通採擇スルニ決シ即日夫々意見書ヲ附シ政府ニ送付セリ

二 金鷄勳章年金令改正並殊勳者優遇ニ關スル請願外二百四十八件

(特別報告第一號)金鷄勳章年金令改正並殊勳者優遇ニ關スル請願外三件 (特別報告第一〇號)長岡市ノ雪害救済ニ關スル請願 (特別報告第一一號)雪害地對策樹立ニ關スル請願 (特別報告第二二號)長崎縣ニ高等水産教育機關設置ノ請願 (特別報告第三九號)小倉ヨリ伊田、大隈ヲ經テ鳥栖ニ至ル鐵道敷設ノ請願

以上ノ報告書ハ昭和十一年五月十二日議長ニ提出ス

(特別報告第四八號)利根川治水事業ノ豫算計上ニ關スル請願
以上ノ報告書ハ昭和十一年五月十六日議長ニ提出セリ

(特別報告第八八號)霧島國立公園事業費豫算計上ニ關スル請願 (特別報告第一〇二號)公立商船學校卒業生ニ對シ特別教育機關設置ノ請願 (特別報告第一一五號)安藝阿賀、志和口兩驛間鐵道敷設ノ請願外二件 (特別報告第一三〇號)雪害地對策樹立ニ關スル請願
以上ノ報告書ハ昭和十一年五月十九日議長ニ提出ス

(特別報告第一四〇號)久慈川改修促進ノ請願 (特別報告第一四一號)淀川低水工事繼續施行ノ請願外二件 (特別報告第一四四號)利根川本支派川増補工事施行ノ請願 (特別報告第一四八號)國立公園事業費豫算計上ニ關スル請願外一件 (特別報告第一五四號)雪崩ノ被害防止施設ニ關スル請願 (特別報告第一五六號)農業保險法制定ニ關スル請願 (特別報告第二〇二號)七尾、氷見間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第二〇五號)岡崎、多治見間鐵道速成ノ請願 (特別報

告第二〇八號)湖南鐵道敷設ノ請願外二件 (特別報告第二一五號)金鷄勳章年金令改正並殊勳者優遇ニ關スル請願外一件 (特別報告第二一七號)雪害地對策樹立ニ關スル請願 (特別報告第二一八號)新潟縣雪害對策樹立ニ關スル請願外三十九件
以上ノ報告書ハ昭和十一年五月二十日議長ニ提出セリ

(特別報告第二二四號)鶴見川改修ノ請願 (特別報告第二六九號)新潟縣雪害對策樹立ニ關スル請願外三十四件 (特別報告第二七三號)湖南鐵道敷設ノ請願 (特別報告第二七四號)安藝阿賀、志和口兩驛間ニ鐵道敷設ノ請願

以上ノ報告書ハ昭和十一年五月二十二日議長ニ提出セリ

(特別報告第二八五號)野澤、柳津間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第二八六號)金鷄勳章年金令改正並殊勳者優遇ニ關スル請願 (特別報告第二八八號)新潟縣雪害對策樹立ニ關スル請願外百六件 (特別報告第二八九號)農業保險法制定ニ關スル請願 (特別報告第二九〇號)新潟縣雪害對策樹立ニ關スル請願外二十七件 (特別報告第二九一號)千歲村字「ママチ」ニ陸軍飛行隊設置ノ請願

以上ノ報告書ハ昭和十一年五月二十三日議長ニ提出ス

右請願各特別報告ハ目的同一ノ議案議決ノ結果先例ニ依リ採擇ト看做シ夫々意見書ヲ附シ政府ニ送付セリ

三 產繭處理統制法制定促進ノ請願外五十三件

(特別報告第五八號)產繭處理統制法制定促進ノ請願外六件
以上ノ報告書ハ昭和十一年五月十六日議長ニ提出セリ

(特別報告第一三二號)產繭處理統制法制定促進ノ請願外四十二件
以上ノ報告書ハ昭和十一年五月十九日議長ニ提出セリ

(特別報告第二一九號)產繭處理統制法制定促進ノ請願外三件
以上ノ報告書ハ昭和十一年五月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

右各請願特別報告ハ政府提出產繭處理統制法案可決ノ結果議決ヲ要セサルモノトナレリ

第三章 質問及答辯

本期議會ニ提出セラレタル質問主意書ハ十五件ニシテ内一件ハ撤回セラレ十四件ニ對シテハ孰レモ書面答辯アリタルヲ以テ口頭質問ヲ爲スニ至ラス此ノ外ニ緊急質問一件アリ口頭答辯アリタリ

一 沿岸漁民生活防衛ニ關スル質問

四面環海ノ我が國沿岸漁業ハ逐年衰頹ヲ來シ漁獲總價額ノ如キ大正十二年ノ二億四千七百萬圓ハ昭和八年ニ於テ一億七千萬圓ニ減ジ我が國百五十萬漁民ノ最大多數ヲ占メル沿岸漁民ノ生活窮乏ハ言語ニ絶スルモノガアル而シテ昨今特ニ沿岸漁民ヲ刺戟シテ居ルモノニ内地沖合漁業カラ來ル壓迫ト新興化學工業ノ發達並廢液流出ニ因ル魚介ノ移動衰滅トガアル斯ル際ナレバ左記各項ニ關シ特ニ明確ナル政府ノ答辯ヲ得タシ

一 機船底曳網漁業禁壓ニ關スル件

機船底曳網漁業ニ就テハ同漁業取締規則、同漁業禁止區域設定等ニ依リ相當重イ制限ヲ設ケ

テアルガ其ノ制限内ノ操業ニ據ツテハ收益ガ少キ爲監視船ノ監視ヲ免レテ禁止區域ヲ犯スコトガ常例トナツテ居ル斯クテ法令ニ依ル機船底曳網ノ取締厲行ニ拘ラズ沿岸小釣漁場ハ荒サレ漁民ノ疲弊ハ其ノ極ニ達シ某地方ノ如キハ漁民騒動ヲ起シタル實例サヘアリ眞ニ沿岸漁民ヲ守ルガ爲ニハ斷乎機船底曳網沖合漁業ヲ禁止シ且之等機船底曳網漁業者ニ相當ノ轉業資金ヲ交付シテ遠洋漁業ニ轉ゼシメテ生活ノ更生ヲ圖ル以外ニ方法ハナイ政府ニ於テハ斯ル政策ヲ取ル意思アリヤ否ヤ

二 機船底曳網漁業取締ニ關スル件

今日機船底曳網漁業ノ法令違反者ニ對シテハ嚴重ナ處分ヲ行ヒツツアルガ之ハ過剩漁業者整理ノ爲ノ一時的の方策デ機船數ガ一定數以下ニ下レバ敢テ此ノ方策ヲ固執セザルヤニ聞ク例ヘバ高知縣ニ於テハ其ノ機船數ガ三十隻ヲ割レバ違反者ニ對シ許可取消ノ如キ處分ヲセズトノ噂ヲ聞ク果シテ之ガ真相デアルカ又政府ニ其ノ底意アリヤ否ヤ

三 港灣改築沿岸埋立ニ關スル件

我が國沿岸ハ稚魚ノ發生生長ニ適スル淺海ニ富ンデ居タガ新興産業ノ發達、海外貿易ノ發展ハ續々港灣ノ改築トナリ沿岸埋立工事ノ起工トナリ沿岸漁民ノ生活本據タル漁場ハ彼等ノ手カラ奪ヒ去ラレツツアリ海面ハ官有物デアルトハ云ヘ漁介採集ノ爲從來漁民ハ幾多ノ施設ヲ

行ツテ居ル其レガ殆ンド言フニ足ル補償サヘナサレズ奪ハレテ居ルガ政府ハ斯ル漁民ニ對シ適當ノ求償權ヲ與ヘル法令ヲ制定スル意思ナキヤ否ヤ

四、工場廢液對策ニ關スル件

工場特ニ人絹工業ノ如キ新興化學工場ノ廢液ガ沿海ニ流注シ魚介ノ衰滅移動ヲ生ジ然ラデダニ窮乏セル漁民ノ生活ヲ脅シ彼等ヲ驅ツテ大衆的抗爭ニ憤起セシメタ事例ハ枚擧ニ遑ガナイ之ハ右工場廢液處分ニ關シ國法上ニ一定シテ取締法規ナキ所ニ起因スルモノト信ゼラレル既ニ昨年開カレタ道府縣經濟部長會議ニ於テモ之ガ對策ガ審議サレタト聞クガ政府ハ有害廢液處置ニ關シ嚴重ナ法規ヲ制定公布スル意思ナキヤ否ヤ

右及質問候也

右質問主意書昭和十一年五月八日佐竹晴記君提出ス同月十九日潮内務大臣及島田農林大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

一、機船底曳網漁業禁壓ニ關スル件

政府ハ昭和七、八兩年度ニ中央及地方廳ニ機船底曳網漁業取締船ヲ増設シ以テ禁止區域侵犯、操業區域外操業等ノ取締ヲ一層嚴ニスルト共ニ違反者ニ對シテハ司法處分ノ外漁業停止、許可ノ取消等嚴重ナル行政處分ヲ爲シ以テ沿岸漁場ノ保護ニ努メツツアリ殊ニ東經百三十度以東ノ内地近海ヲ操業區域トスル本漁業ニ對シテハ銳意漸減方針ヲ以テ整

理ニ努メツツアルモ今後更ニ速ニ整理ヲ促進スル要アリト認メラルヲ以テ目下其ノ方策ニ關シ銳意考究中ナリ

二、機船底曳網漁業取締ニ關スル件

政府ノ行ヒツツアル機船底曳網漁業ノ取締ハ法令ノ違反ナカラシメントスルニアリテ質問書ノ如キ趣旨ニ基クモノニアラス

三、港灣改築沿岸理立ニ關スル件

公有水面理立法及耕地整理法ニ依リ行フ理立ニ付テハ漁業權又ハ入漁權ニ對シテ損害補償ノ規定アリ又土地收用法ニ依リ漁業權又ハ入漁權ヲ收用スル場合ニ付テモ同様ナリ又港灣改築ノ場合ニ於テハ企業者ニ於テ相當ノ補償ヲナシ居レル實情ナルモ之カ求償權ヲ與ヘル法令ノ制定ニ關シテハ目下考究中ナリ

其ノ他ノ場合ニ付テモ漁業權又ハ入漁權ノ制限取消等ノ場合ニ於ケル補償ニ付テハ目下考究中ナリ

四、工場廢液對策ニ關スル件

政府ハ曩ニ漁業法ヲ改正シ行政官廳ハ同法ニ基キ水產動植物ニ有害ナル物ノ遺棄又ハ漏泄ニ關スル制限禁止ノ命令ヲ發シ得ルコトトセリ又河川法、工場法等ニ於テモ水質汚濁ノ虞アリト認ムル行爲又ハ設備ニ對シテ相當ノ措置ヲ命シ得ルモ尙水產動植物ノ保護公衆衛生其ノ他公害防止等ノ見地ヨリ水質汚濁防止制度ノ樹立ニ付考究中ニ屬ス右及答辯候也

二 行政裁判所法案行政訴訟法案訴訟法案權限裁判法案及行政裁判官懲戒法案ニ關スル質問

行政裁判及訴願ニ關スル現行法規改正ノ件ニ付テハ政府ハ大正十二年臨時法制審議會ニ諮問シ同審議會ハ主査委員ヲ擧ケテ審査セシメタル後昭和三年中行政裁判法及訴願法改正綱領ヲ議決シ之ヲ政府ニ答申シ政府ハ更ニ昭和四年九月中行政裁判法及訴願法改正委員會ヲ設置シ行政裁判手續及權限爭議ニ關スル事項ヲ調査審議セシメ同改正委員會ハ主査委員ヲ擧ケテ審査セシメタル後昭和七年十月ヲ以テ行政裁判所法案、行政訴訟法案、訴願法案、權限裁判法案及行政裁判官懲戒法案ヲ完成シ之ヲ政府ニ答申シタリ然ルニ第六十五回議會ノ當時政府ハ之ヲ帝國議會ニ提出セサルヲ以テ本員ハ政府ニ對シ(一)政府ハ昭和七年十月ヲ以テ行政裁判法及訴願法改正委員會ヨリ行政裁判所法案、行政訴訟法案、訴願法案、權限裁判法案及行政裁判官懲戒法案ノ答申ヲ受ケナカラ既ニ一年有餘ヲ經過セルニ拘ラス何故ニ之ヲ今期帝國議會ニ提出セサルヤ其ノ理由ノ詳細如何(二)政府ハ今期帝國議會ニ之ヲ提出セサルヲ以テ政府ノ怠慢ト認メサルヤ(三)政府ハ次ノ通常帝國議會ニ之ヲ提出スルノ意思ナリヤノ質問ヲ爲シタリ之ニ對シ時ノ齋藤內閣總理大臣ハ行政裁判及訴願ニ關スル現行法規ノ改正ニ關シテハ行政裁判法及訴願法改正委員會ノ答申ニ基キ政府ハ銳意關係當局者間ノ議ヲ進メ案ヲ練リツツアルモ尙未タ議會ニ提案シ得ルノ程度ニ至ラス從テ今期議會ニ提案シ得サルコトハ洵ニ遺憾トスル所ナレトモ今後猶一層準備ノ進歩ヲ圖リ成ル可ク速ニ法案ヲ提出セシムルコトヲ期シツツアリト答辯シタリ爾來二箇年ヲ空過シ

今日迄未タ提出ニ至ラス仍テ本員ハ政府ニ對シ左ノ質問ヲ爲サムトス

- 一 政府ハ昭和七年十月中行政裁判法及訴願法改正委員會ヨリ答申セラレタル行政裁判所法案、行政訴訟法案、訴願法案、權限裁判法案及行政裁判官懲戒法案ヲ何故ニ今日迄帝國議會ニ提出セサルヤ
 - 二 政府カ右各法案ノ答申ヲ受ケテヨリ既ニ三年半以上ノ歲月ヲ經過セルニ拘ラス之ヲ帝國議會ニ提出セサルハ甚タシキ怠慢ト認ム政府ノ所見如何
 - 三 政府ハ次ノ通常帝國議會ニ之ヲ提出スルノ意思ナルヤ
 - 四 政府ノ一部ニハ寧ロ其ノ提出ヲ阻止セムトスル者アルニ非サルヤ如何
- 右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月八日宮古啓三郎君提出ス同月十九日廣田內閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一、行政裁判法及訴願法改正委員會ヨリ答申セラレタル行政裁判所法案、行政訴訟法案、訴願法案、權限裁判法案及行政裁判官懲戒法案ニ付テハ答申後關係當局者間ニ於テ引續キ議ヲ進メツツアルモ其ノ内容ニ付テ尙攻究ヲ要スルモノアリテ未ダ帝國議會ニ提出シ得ルノ程度ニ至ラザルニ由ル
- 二、行政裁判法及訴願法改正委員會ヨリ答申アリテヨリ關係當局者間ニ於テ協議ヲ重ネツツアルモ、未ダ議會ニ提出シ得ザルハ事情已ムヲ得ザルモノト認ム

三、次回ノ通常議會ニ提出スルヤ否ヤハ今日之ヲ言明スルノ限リニ非ズ
四、政府ノ一部ニ其ノ提出ヲ阻止セムトスル者アリトハ思料シ居ラズ
右及答辯候

三 皇曆紀元ニ關スル質問

我が大日本皇國ハ史實上原始國家デアツテ人爲的建造國家デハナク實ニ國土ノ修理固成ト共ニ
神ナガラノ自然ニ出來タ國デアアル即チ國家學上ノ自然國家デアアルカノ人ノ土地ヲ征服シテ建テ
タ征服國家ヤ又人ノ國カラ背離シテ造ツタ分立國家等トハ大ニ其ノ根本ヲ異ニスルコトハ申ス
マデモナク天之御中主神以下諸神ヲ經テ宇内ヲ統宰セサセラレ伊弉諾伊弉册ノ二尊ニ至リ次第
ニ國土經營ノ御神業成リ天照大御神ノ御時ニ至リ其ノ所謂天壤無窮ノ御神勅ヲ以テ我が國礎ヲ
確實ニセサセ給ヒシモノ即チ教育勅語ノ「皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ」ト宣ハサセ給ヘル所
以ノモノナレバ世界諸他ノ建設國家ト全ク其ノ大旨ヲ異ニスルコトハ昭々乎トシテ明白ナル次
第デアアル

斯ク我が國開闢ノ御太元ハ極メテ遠キ太古神代ノ御事ニテ我が國ハ將來永久ニ無限ナルト共ニ
悠カニ過去ニ溯リテモ同ジク無窮ナレバ皇曆上年數表示ノ爲神代ヲ擱イテ特ニ人皇初代ノ神武

天皇御即位ノ日ヲ以テ紀元ト定メサセラレ毎年此ノ日ヲ大祝節トセサセラレ給ヘルモ之ハ決シ
テ我が建國ノ紀元デナク神武天皇即位紀元デアアルコトハ左ノ當時ノ布告ニ依ルモ明ラカデア
ル

一明治五年十一月十五日太政官布告第三百四十二號

今般太陽曆御頒行神武天皇御即位ヲ以テ紀元ト被定候ニ付其旨ヲ以テ被爲告候爲メ來ル二

十五日御祭典被執行候事

一同年同月同日太政官布告第三百四十四號

第一月二十九日神武天皇御即位日相當ニ付祝日ト被定例年御祭典被執行候事

一明治六年三月七日太政官布告第九十一號

神武天皇御即位日ヲ紀元節ト被稱候事

此ノ一月二十九日神武天皇御即位日ハ日本書紀ノ神武紀ニ依リ天皇橿原宮ニテ御位ニ即キ給フ
タ辛酉ノ年春正月庚辰朔ニ當ルノデアアルガ之ヲ太陽曆ニ推步シテ二月十一日トナルノデ爾來二
月十一日ヲ以テ節日トセラレ明治七年ノ曆面ヨリ記載セラルルコトトナツタノデ又年々ノ曆面
ニハ皇曆年數ヲ掲グルニ單ニ紀元何年トセズ必ズ神武天皇即位紀元何年ト記載シ建國紀元ニア
ラザルコトヲ明ラカニセラレテアルノデアアル

申スマデモナク神武天皇ハ神祖ノ御正系トシテ御齡十五ノ御時父鸕鷀草葺不合尊ヨリ皇太子ニ定メサセラレ給ヒシコトナレバ假令中州御平定ノ御事ナクトモ當然天位ニ即カセ給フベキ御方デ其ノ御東征ノ御偉業ハ景行天皇仲哀天皇ノ御西征ナドト其ノ事柄ニ於テハ何等異リハナク均シク神代ヨリ受繼ギ給ヒシ我ガ國ヲ安ラカニ治メ給ハンガタメノ御行動デアツテ決シテカノ忌ハシイ征服掠奪等ノ建國的御創業デハナイコトハ申スマデモナイノデアアル

然ルニ世間或ハ神武建國ト唱ヘ建國記念ト稱シ又紀元節祝日ヲ特ニ建國祭ト稱シテ特別ノ行事ヲ爲ス者アルガ如キハ天皇ノ國內御平定ノ御偉業ヲ以テ怡モ人ノ國ヲ征服侵奪セラレテ建國行動ヲ執リ給ヒシガ如ク思ヒ謬ラシムル虞ヲ生ズベキコトハ我ガ神聖ナル國家ノ成立ニ顧ミ洵ニ深ク恐レテ懼レザルヲ得ザル次第デアアル

尙甚シキハ天皇橿原奠都ノ御詔ヲ建國ノ大詔ト稱シ又神武建國號等ノ史書モ行ハレテ居ルガ之ガ天皇ノ御旨ニ戻ルコトハ右奠都ノ御詔ノ中ニモ「上ハ則チ乾靈(あまつかみ)國ヲ授クルノ徳ニ答ヘ、下ハ則チ皇孫正シキヲ養フノ心ヲ弘メ」云々ト天皇御躬ヲモ自ラ國ヲ建テ給フタノデナク神祖ヨリ國ヲ授ケラレタコトヲ宣ハセラレテアルニ見テモ明々白々ノ事デアアル

明治天皇ノ御製ニモ

神代よりうけし寶をまもりにて治めきにけり日の本の國

嚴かにまもらさらめや神代よりうけ継ぎきたる浦安の國

ト何レモ神代ヨリ受繼ギ來リ給ヒシ國デアル旨ヲ明ラカニ宣ハセラレテアルニモ拘ラズ恰モ米國ノ獨立祭ヤ滿洲ノ建國祝ノ如ク紀元節ヲ建國日トシ神代ヨリ天壤無窮萬世一系ノ我ガ神國ノ史實ヲ無視シテ神武天皇ガ始メテ國家ヲ創建シ給ヒシガ如クナスコトハ恰モ天皇ガ我ガ開國ノ始祖ニシテ萬代一系ハ天皇ヨリ始ムルモノノ如ク隨テ神武天皇以前ハ果シテ如何ノ國ニシテ天祖ノ神勅及神器ハ如何ノ關係ニ措カルベキヤヲ怪疑セザルヲ得ザルコトナリ誠ニ我ガ國體上由々シキ重大事ト謂ハネバナラヌ

内閣總理大臣ハ國體觀念ヲ明徴ニスル上ニ於テ國家大政ノ變理上之ヲ閑却セラルベキデナイト思フガ果シテ如何又内務大臣ハ近年行ハレ來ツテ居ル建國祭其ノ他ノ諸行事竝ニ神武建國ナル諸圖書等ヲ取締ル必要ヲ認メザルヤ文部大臣モ國體觀念ノ認識徹底ノ上ニ於テ國民ノ教育指導上斷ジテ此レヲ等閑ニ付シ去ルベキモノニアラズト思フガ如何

來ル紀元二千六百年ヲ記念スベク今ヤ諸種ノ記念事業ガ企テラレントシ已ニ建國記念大博覽會等ノ建國記念ト冠シタル名稱ノ事業モ行ハレツツアリ此等ノ企畫名稱等ノ決定セザル以前ニ於テ先ヅ其ノ名ヲ正シ其ノ實ヲ明カニスルコトノ最緊急至切ナルヲ認メ之ヲ前議會ニ質問シタルモ政府ノ答辯ヲ得ルニ至ラズシテ議會ハ解散トナリタルヲ以テ更ニ茲ニ質問スル次第デアアル三大

臣ノ答辯ヲ求ム

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月九日荒川五郎君提出ス同月十九日廣田内閣總理大臣、潮内務大臣及平生文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

一、政府ハ既ニ屢言明セル如ク國體觀念ヲ明徴ナラシムル爲ニハ最善ヲ盡ス所存ナリ
一、建國祭ニ關シテハ我國開闢ノ大精神ヲ紀元ノ佳節ニ於テ大イニ國民ニ自覺徹底セシメントスルノ意ニ出デタルモノト解シ居レリ

右及答辯候

四 帝國ノ人口ト移民政策及比律賓ノ土地問題ニ關スル質問

我が國ノ人口ハ毎年百萬近ク増加ヲ見ルニ之ニ對スル政府ノ施設ニ特ニ見ルヘキモノナシ是等過剩人口ニ正常ナル生存權ヲ與フルハ刻下ノ急務ナルヲ以テ移民政策確立ノ必要アリト信ス政府ノ對策如何尙比律賓在留日本人租借ノ土地問題ニ關スル政府ノ方針如何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月九日福田關次郎君提出ス同月十九日廣田内閣總理大臣、有田外務

大臣及永田拓務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

輓近我國人口ハ連年約百萬ノ自然増加ヲ來シ之カ解決ハ現下ノ要重問題ナルニ鑑ミ政府ハ移民及海外拓殖事業ノ進展ニ付鋭意努力シツツアリ而シテ移民ニ就テハ出來得ル限り多數ノ移民ヲ送出セントスル方針ト下ニ之ヲ特定ノ地ニ限定セス廣ク海外各地ニ對シテ行フコトニ努メ其ノ實行ニ當リテハ本邦移民ヲ欲セサル國ニ對シテ強ヒテ之ヲ送出セス又本邦移民ニ對シテ他國移民ト差別待遇ヲ爲ス國ニ對シテモ之ヲ送出セサル方針ナルカ政府ハ出先官憲ヲ督勵シ外國側ノ本邦移民ニ對スル誤解ヲ一掃シ入國制限ノ緩和又ハ差別待遇ノ撤廢ニ努力シツツアリ且又共存共榮ノ精神ニ依リ相互ノ提携ヲ策シ貿易ノ圓滑、文化ノ交換等親善關係ノ増進ヲ期シ居レリ特ニ滿洲國ニ對シテハ我國ト特殊不可分ノ關係ニアルト共ニ過去數回ニ互リ實施セル試驗移民ノ実績大體良好ナルニ徴シ將來大量移民ヲ送出スル方針ナリ尙最近ノ國際情勢ニ適應シタル移民實行方策審議ノ爲海外拓殖委員會ヲ設立シ重要事項ヲ審議スルト共ニ其ノ喫緊ニ屬スルモノハ著々之カ實行ニ努メツツアリ、比律賓ニ於ケル邦人關係土地問題ニ關シテハ昭和十年七月以來「ダヴァオ」ニ於テ邦人ノ入耕セル米比人土地ノ中比島政府ヨリ租借又ハ拂下取消命令ヲ受クルモノ續出スルニ至リタルヲ以テ帝國政府ハ出先官憲ヲシテ比島當局ニ對シ本邦人ノ權益保護方ニ付深甚ナル注意ヲ拂フ様申入レシムル等機宜ノ措置ヲ採リタルカ比島新政府成立後同年十二月ニ至リ比島大統領ハ土地取消命令ノ實施ヲ差止ムル所アリタリ、其後本年四月上旬同大統領ハ農務、司法兩長官ヲ帶同「ダヴァオ」ニ赴キ自ラ現地ノ狀況ヲ視察スルコトトナリタルヲ以テ出先官憲ヲシテ同大統領ト篤ト意見交換ヲ爲サシメタルカ其後モ引續キ我方權益擁護方善處セシメツツアリ

右及答辯候也

五 燃料國策ニ關スル質問

一 政府カ計畫スル液體燃料自給自足政策ノ範圍如何

過般内閣總理大臣ハ其ノ施政方針ヲ明示スル演說ニ於テ液體燃料ノ自給自足ヲ促進スル旨ノ言明ヲ爲シ今回議會ニ提出セラレタル追加像算案中ニ於テモ液體燃料ニ關スル費目ヲ計上セリ蓋シ内燃機動機關ノ躍進的發達ヲ示セル現代ニ於テ國防海運ヲ始メ各種ノ國策上液體燃料自給自足ノ緊急ナルコト勿論ナリ政府カ之ニ著目スルコトノ寧ロ遲キヲ憾ムノミ唯茲ニハ其ノ範圍ト方針トニ付テ問ハムトス液體燃料政策ハ獨リ石油ノ保有及石炭ノ液化ニ止マラス諸外國ニ於テモ實施スル如ク揮發油ニ對スル酒精ノ混和ニ付テモ策ヲ樹ツヘキニ非サルカ

二 揮發油ニ對スル酒精ノ強制混和ハ輸入ヲ減少スルト同時ニ農村振興政策タルノ方面ヲ有スト考フ政府ノ所見如何

世界ニ於テ揮發油ニ對シ酒精ノ強制混和ヲ實行スルノ邦國ハ既ニ十一ニ及ヘリ其ノ他ニ未タ強制法ヲ布カスト雖之ヲ實行スルモノ三十國ニ及ヘリ蓋シ揮發油ニ無水酒精ヲ混和スルコトニ由テ燃料ノ「オクタン」價ヲ高メ發動機ノ壓縮比ヲ高率ナラシムルコトニ依リテ出馬力ヲ増

大セシメ之ニ依リテ燃料消費ノ全般の減少ヲ圖ルカ爲右強制混和カ廣ク賞用セララルニ至リタルモノナリ我カ國ニ於テハ以上ノ外尙此ノ方策ヲ重視スヘキ理由アリ他ナシ酒精ノ原料タルヘキ馬鈴薯ハ我カ國土ニ於テハ東北、山陰、南海ノ別ナク容易ニ之ヲ生産シ得ヘシ假リニ我カ國現在消費ノ揮發油ノ量ヲ基準トシ之ニ對シ二〇%ノ無水酒精ヲ混和セムトセハ其ノ原料タル馬鈴薯ハ六億四千萬貫ヲ要シ爲ニ十五萬六千五百町歩ノ作付段別ヲ利用シ農村ニ五千萬圓ノ代價ヲ交付シ得ヘシ固ヨリ右ハ一ノ假定的推算ニ過キサレトモ馬鈴薯ノ如キ荒蕪ノ土地ニモ生産シ得ル農産物ヲ用ヒテ我カ國液體燃料問題ヲ解決スルカ如キハ所謂一石ヲ以テ二鳥ヲ僵スニ似タリ宜シク此ノ方策ヲ採ルヘキモノト考フ政府ノ所見如何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月十二日清瀨一郎君提出ス同月十九日小川商工大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一 液體燃料ノ自給自足ヲ促進スル爲政府ハ石油業法ノ施行内外石油資源ノ開發確保、代用燃料工業ノ振興等各般ニ互ル施設ヲ實施シツツアルガ將來更ニ其ノ擴充徹底ヲ圖リ液體燃料ノ供給確保ニ遺憾ナキヲ期セントス
- 二 揮發油ニ對スル酒精ノ強制混和ハ揮發油ノ需給ノ趨勢ニ鑑ミ液體燃料補給上我國ニ於テモ考慮スベキ重要ナル方策ト認メラレ又之ガ原料ノ供給ヲ國內農産物ニ求ムルハ一面農村振興ノ趣旨ニモ副フ所以ナリト思料セラルルヲ以テ目下關係各省ト協力ノ上銳意調査ヲ進メ具體

案ヲ攻究中ナリ
右及答辯候也

六 海運國策ニ關スル質問

第一 當今我カ國海運ハ自主的發展ヲ獎勵スヘキ時期ニ在リト信ス政府ノ所見如何
本邦海運ハ當初國家ノ補助ニ依リ發達シタルモ近年ニ於テ社外船ハ當業者ノ奮闘ト實力トニ依リ著シク發展ヲ來セリ日本郵船ハ國家ノ補助ヲ以テ堅實ナル發達ヲ爲シ日清日露戰役ニ多大ノ貢獻ヲ爲セリ又大阪商船ハ瀬戸内海航路ヨリ出發シ日露戰役以前ニハ見ルヘキモノ少カリシカ現在其ノ勢ハ前者ノ壘ヲ摩スルノ狀況ナリ他面所謂社外船ヲ見ルニ日露戰役後ニ於テ漸ク擡頭シ世界大戰ニ當リ著シク躍進シ今ヤ各内外航路殊ニ遠洋航路ニ又世界航路ニ其ノ特異性ヲ發揮シ前二社ト共ニ其ノ活動ヲ競フニ至レリ社外船カ獨自ノ立場ニ在リテ平等ノ競爭場裡ニ活動シ今日ノ躍進ヲ示セルハ本邦海運ノ強味ヲ示スモノニシテ國策トシテ大ナル考慮ヲ要スル所ナラサルヘカラス又定期船トシテ遠洋ニ目覺シキ進出ヲ爲シ殊ニ北米太平洋及紐育航路ニ於テ本邦船ノ絕對優勢ヲ示スハ專ラ社外船ノ力ニ依ルモノト言フヲ得ヘシ尙社

外船ハ印度、「アフリカ」方面ノ郵、商ノ未タ手ヲ染メサル地ニ定期航ヲ開擴シ最近ハ中南米、「ボンベイ」、濠洲、印度濠洲及歐洲線ニ國際、川崎、山下、三井諸社ノ進出ヲ開始セルアリ又ハ計畫中ノモノアリト謂フ然ルニ郵船ト商船トハ昭和六年協約ヲ爲シ商船ハ歐洲航路及北米航路ヲ撤退シ郵船ハ南米航路ヲ放棄セリ斯ク補助會社ノ重要三大航路ヲ捨テ退嬰セシニ當リ此ノ進出ハ如何ニ社外船カ近來本邦海運ノ振興ニ貢獻セルカヲ窺知スヘク又將來ノ本邦海運發展ハ主トシテ社外船ノ力ニ俟ツヘキモノアルヲ知ルニ足ラム不定期即チ「トランバ」カ近年漸次定期ニ轉スルハ世界ノ大勢ニシテ從前世界船舶總數ノ三分ノ二即チ大多數カ不定期船ナリシモ最近ニ在リテハ二分ノ一トナレリ是レ不定期船ノ著シク定期船ニ轉セシヲ示スモノナリ本邦ニ在リテモ社外船ノ定期化ハ著々堅實ナル地步ヲ占メ前記ノ如ク世界各地ニ進出セルハ誠ニ慶賀スヘキ所ナリ英國政府カ從來ノ自由主義ノ型ヲ破リ昨年來不定期船ニ補助ヲ與フルニ至リシハ注目ニ値スルモノニシテ本邦ニ於テモ社外船ノ定期化獎勵ヲ爲スト共ニ不定期船ニ對シテモ其ノ海外進出活動ノ助長ニ意ヲ用フルノ緊要ナルヲ覺ユルナリ然ルニ航路統制ハ是等社外船ノ發達ヲ阻止シ海運國策ニ反スルモノアリト信ス之ニ對スル政府ノ所見如何

第二 本邦海運ハ外船ノ侵入著シク其ノ爲壓迫セラレツツアリ之ニ對スル政府ノ所見如何

本邦海運ノ現有噸數ハ世界ノ第三位ヲ保ツト雖英米ニ遠ク及ハスシテ纔ニ英ノ五分ノ一、米ノ三分ノ一ニ過キス而シテ國防ニ於テハ世界ノ三大海軍國トシテ英米ト均等ヲ主張セルニ拘ラヌ海軍力ト國防上併行スヘキ商船ノ勢力ニ於テハ英ノ五分ノ一、米ノ三分ノ一ニ過キサルハ大ナル缺陷ナリト言フヘシ又我カ海運ヲ貿易ニ對比スルニ現在我カ貿易カ五年前ノ約二倍ニ急進セルニ對シ其ノ先驅ヲ爲スヘキ海運カ遅々トシテ進マス却テ五年前ニ比シ噸數ハ百分ノ五ノ減少ヲ爲セリ次ニ本邦ニ入船セル各國船ノ勢力ヲ比較スルトキハ本邦船ハ大正十四年ヨリ昭和四年ニ至ル五箇年間ハ總數ノ六割六、七分ヲ占メシカ五年後ノ昭和九年ニ於テハ六割二分ニ減退シ却テ外國船ハ此ノ間三割四分ヨリ三割八分ニ増加ヲ呈シタリ是レ明ニ一面邦船ノ額勢ヲ示スモノナリ

以上觀シ來レハ本邦海運ノ現在情勢カ樂觀ヲ許ササルハ容易ニ知ルヲ得ヘク歐米各國カ海運國策ノ強化ヲ樹立スルノ時ニ當リ本邦船ノ進出發展ヲ障礙スルカ如キ今次ノ統制法案ハ國策ノ根本義ヲ誤ルモノナリト言ハサルヲ得ス之ヲ要スルニ

一 海洋ノ自由ヲ有スル海運ニ於テ航路ハ自由ニ解放セラレタル世界ノ競争場裡ナレハ其ノ本來ノ性質上競争ノ起ルハ必然的ニシテ免ルヘカラサルモノナリ而シテ航路ハ實力ヲ有スル者ノ獲得スルモノニシテ實力ハ之ヲ阻止シ能ハサルコト恰モ水ノ低キニ流ルルカ如キ

ハ海運發展ノ歴史ニ於テ明ナリ之ヲ一會社又ハ一國ノミニ依テ占有スルハ到底不可能事ニ屬ス若シ夫レ一國ノ法令ノ下ニ既設航路者ノ擁護ヲノミ是レ圖リ競争者ヲ抑制スルアラムカ其ノ效力ハ之ヲ他國船ニ及ホス能ハサルカ爲徒ニ自國船ノ進出ヲ阻止シ他國船ノ侵入ニ委ネ遂ニ自國航權ノ破滅スルニ至ルヘキハ前述ノ如シ

二 本邦海運ノ現狀ヨリ見ルニ既設補助會社ノ發達ハ既ニ其ノ餘地ニ乏シキカ如キノ狀態ニ在リ然ルニ自由航路(社外船)ハ駸々トシテ世界的進出ノ途上ニアリ自由競争場裡ニ於テ盛ニ各方面ニ飛躍シ益、其ノ實力ヲ發揮シ幾多ノ堅實ナル定期航路ノ開拓ヲ爲シツツアル現狀ニシテ將來本邦航權ノ擴張ハ專ラ是等自由航船ニ俟ツヘキハ前述ノ如シ此ノ事實ニ立脚スルニ於テハ本邦海運政策ノ重點ハ正ニ自由船ノ振興ニ置カサルヘカラサルハ蓋シ論ナカルヘシ

三 近時本邦商品ノ海外進出漸ク盛ナル秋ニ當リ列強ハ之カ彈壓ニ著々歩ヲ進メ通商條約ヲ無視シ邦貨抑制ノ暴令ヲ濫發セリ之カ爲邦貨ノ輸出ハ激減シ邦商ハ疲弊シ國民生活上ノ危機ニ直面スルニ際シ我カ帝國ハ已ムヲ得サル手段トシテ之ニ處スルニ速ニ通商擁護法ヲ活用シ以テ本邦商權ノ維持獲得ニ努ムルノ外途ナキノ時ニ於テ恰モ敵ニ武器ヲ與フルニ等シキ航路統制法案ヲ今期議會ニ提出スルカ如キハ實ニ帝國ノ威信ヲ損スルニ止マラス航權ヲ

放棄シ延テハ産業ノ自滅ヲ招來スルニ至ルモノト稱セサルヲ得ス

第三 航路統制ハ無意義ナリト信ス政府ノ所見如何
 元來海洋ハ世界各國ニ對シ自由ニ開放セラレ居ル共通ノ航路ナリ一國ハ自國領土相互間ノ沿岸貿易ニ對シテハ運航ヲ制限シ得ルト雖一步自國領海ヲ離レタル海洋ハ悉ク何レノ國家ニモ自由平等ニ開放セラレ其ノ航權ノ獲得亦自由ナルナリサレハ航路ハ萬國平等自由ノ競争場裡ニシテ航權ハ實力者ニ依リ始メテ獲得シ得ラルルモノナルコトハ世界ノ通則ナリ而モ航路ハ一定不變ノモノニ非ス變更改常ナク其ノ限界ノ亦明瞭ナラス自由ニ開放セラレタル海洋ニ於テ航路ヲ專有シ得ルモノニ非サルコト明白ナリ加之世界經濟關係ハ愈々複雑ニシテ航路經營者自體各其ノ特異性ヲ發揮ス隨テ之ヲ統制上ヨリ觀ルニ於テハ航路ナルモノハ單純ニ分界區別シテ考慮シ得ヘキモノニ非ス要スルニ航路ハ其ノ利害關係複雜交叉シ到底同一ノ經路ヲ以テ判斷スヘカラサルト同時ニ其ノ影響ノ範圍ヲ判定スルコト極メテ困難ナリ尙貨物及旅客系統ノ増減及變化等時勢ノ進運ニ伴フ、航路ノ改廢、増減、延長、短縮等ハ自然ノ趨向ナリ斯ル事情ノ下ニアル航路ニ對シ其ノ統制ヲ行フトキハ其ノ矛盾弊害ノ伴フハ容易ニ知ルヲ得ヘク統制ノ困難ナル復タ察スルニ餘アリト是ニ由テ見レハ航路統制ハ無意義ニシテ却テ航權ノ進張ヲ阻止スルモノタルヲ免レヌ航路ノ開拓ハ自由ニ委ヌヘキニ非スヤ

第四 海運ノ競争ハ國法ヲ以テ取締リ難シト信ス政府ノ所見如何

政府計畫ノ航路統制ハ既設航路ニ對シテ不當ナル競争ヲ取締ルニアリト爲スモ其ノ不當競争ノ意義ニハ疑義尠カラス蓋シ競争ノ範圍ハ多岐多端故舉ニ遑アラスト雖其ノ主ナルモノハ
 (一)船舶ノ改良 (二)貨客取扱上ノ優越 (三)運賃率ノ引下ノ三者ナルヘク此ノ中(一)及(二)ハ世界經濟戰上當然ノ事ニシテ不當競争ト言フヲ得サルヘク(三)ノ運賃引下ニ於テ始メテ過激ナル競争ヲ見ルニ至ルコトアルヘシ而シテ運賃率ノ引下ハ表面化セル問題ニ止マラス全然外部ヨリ窺知シ得サル秘密裡ニ於テ運賃ノ割戻ヲ爲スカ如キ其ノ他同目的ノ爲巧妙ナル手段ノ弄セラルルハ海運界一般ノ慣例ナリ斯ノ如キハ宜シク當業者相互間ノ協調ニ於テノミ是正ヲ計ルヘク夫レ以外ニ手段ノ施スヘキモノナキモノナリ元來海運ニ於テハ運賃率ノ最低限度ハ當事者相互ノ協約ニ依リ之ヲ定ムト雖猶且裏面ニ巧妙手段ノ伏在スルヲ免レヌ故ニ斯ル競争ノ絶滅ヲ期スル能ハサル以上世界何レノ國ニ於テモ國法ヲ以テ取締ルカ如キ非常識ノコトアルヲ聞カサル蓋シ當然ナリ

第五 不當競争ニ對スル裁定ノ公平ヲ期スルハ困難ナリト信ス政府ノ所見如何

不當競争ナリトノ係争ヲ生シ其ノ和解成ラスシテ統制委員會ニ付託セラレタル場合ヲ考フルニ委員ハ其ノ専門的見地ニ依リ當然同業者中ヨリ選出セラルヘキモ營業關係ニ於テ相互ノ利

害複雑交叉シ情實纏綿ヲ免レス極メテ「デリケート」ノ關係多キヲ以テ其ノ裁定公平ヲ期シ難キト同時ニ同業者ト雖其ノ營業ノ異ルモノ即チ定期ト不定期、遠洋ト近海、備船ト被備船トハ著シク立場ヲ異ニスルノミナラス互ニ營業上ノ識見ヲ異ニシ利害亦相反スルモノ少カラサルヲ以テ其ノ裁定ハ到底公平ヲ期シ難ク却テ幾多ノ弊害ヲ伴フヘキ性質ノモノナリト考ヘラル

第六 海運ニ關シテハ自由發展ヲ獎勵スルヲ以テ其ノ發達ヲ促進スル所以ナリト信ス政府ノ所見如何

猛烈ナル競争ハ却テ海運ノ健實ナル發達ヲ促スモノナルコトハ海運史ヲ立證スル所ナリ右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月十三日伊豆富人君提出ス同月二十六日頼母木遞信大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

第一 近時諸外國ニ於テハ自國海運ノ保護強化ヲ圖ル爲各般ノ方策ヲ講ジツツアリ本邦海運ヲシテ國際海運競争場裡ニ於テ克ク其ノ覇ヲ制セシメンガ爲ニハ定期船タルト不定期船タルトヲ問ハズ之ガ保護助長ノ方策ヲ講ズルノ要アルハ勿論ナリト雖モ一面邦船相互ノ間ノ無謀ナル競争ヲ防止スルハ我海運ノ進出ニ秩序ヲ與ヘ對外競争力ヲ培養スル所以ナルノミナラス萬般ノ助長策ノ實效ヲ期スル上ニ於テ緊要缺ク可カラザル所トス

第二 本邦海運ハ未ダ不況ノ域ヲ脱セザル諸外國海運ニ先チテ復興ノ緒ニ就キ爾來顯著ナル伸展ヲ遂ゲツツアリ而シテ航路統制法案ハ邦船相互ノ間ノ無謀ナル競争ヲ防止シ一般團結シテ

適正ナル規律ノ下ニ航路ノ運管ヲ爲サシメントスルモノナルヲ以テ外國船ノ侵入ヲ防止スル上ニ於テ多大ノ效果アルベシト認ム

第三 交通路トシテ自由ナル海上ニ於テ營業地盤トシテ特定航路ヲ選擇經營スルコトハ固ヨリ原則トシテ當業者ノ自由ニ委セラルル所ナリト雖モ交通量、船腹量等ノ事情ヲ無視シテ邦船相互ノ間ニ無謀ナル競争ヲ敢テスルニ於テハ當ニ我海運資本ヲ徒費スルノミナラズ却而外國船ヲシテ乗ゼシムルノ虞アリ航路統制法案ハ斯ル弊害ヲ除去セムトスルモノナルヲ以テ我航權ノ伸張上極テ緊要ナリト認ム

第四 海運競争ノ手段ハ固ヨリ多岐ニ互リ全面的ニ之ガ絶滅ヲ期スルハ容易ニ非ズト雖モ航路統制法案ハ本邦海運ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲邦船相互ノ不當ナル競争ヲ防止セントスルモノニシテ斯ル弊害ハ同法ニ依リテ充分之ヲ除去シ得ベシト認ム

第五 航路統制法案ニ於テハ政府ノ行政處分ハ原則トシテ航路統制委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要スルモノト爲スヲ以テ航路統制委員會ヲシテ汎ク海運關係權威者ヲ網羅シ適正ナル運用ヲ爲サシムルトキハ公平妥當ナル行政處分ヲ期シ得ベシト認ム

第六 海運發達ノ途上ニ於テハ之ヲ自由ニ放任スルヲ得策トスル場合モアルベシト雖モ本邦海運ノ現狀ニ鑑ミルトキハ當業者ノ自由競争ニ委スルノ方針ニ對シ幾分ノ是正ヲ加ヘ競争ニ因ル極端ナル弊害ヲ除去スルハ本邦海運ノ基礎ヲ強化シ其ノ健全ナル發達ヲ促ス所以ナリト認ム

右及答辯候也

七 國體明徴ニ關スル質問

一 廣田首相ハ國體觀念ノ明徴ニ關シ 明治天皇ノ下シ賜ハリマシタ教育勅語ノ初頭ニ於テ 明治天皇カ日本ノ國體ヲイトモ鮮明ニ御説キニナツテ居ルコトヲ教ヘラレテ居ルノデアリマ ス即チ

「我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ」ト仰セラレテ居ルノデアリマス、此大日本帝國ハ 明治 天皇ノ仰セノ通り、皇祖皇宗ノ御肇メニナツタ國デアリマス、ソレヲ萬世一系ノ 天皇ガ歴代 統治シ、徳ヲ樹テラレタコトガ深厚デアルト云フコトガ、我ガ國體ノ精華デアルト云フ、 明治天皇ノ思召デアリマス、此觀念ハ、之ヲ憲法ノ上ニハ第一條ニ明確ニ御示シニナツテ居ルノ デアリマス、隨テ是等ノ點カラ拜察致シマシテモ、我國ニ於キマシテハ、統治權ト云フモノハ 一ニ 天皇ニ存スルト云フコトハ、疑ナイコトデアルト思フノデアリマス、我ガ國體ノ根本觀念 ヲ明ニ申シマスレバ、此信念ニ歸著スルデアラウト思フノデアリマス、斯ル觀念ハ私ノ察スル 所ニ依リマス、是ハ誰モ人間ガ作ツタヤウナモノデナイ、皇祖皇宗ガ國ヲ肇メラレタ當時カ ラ、其下ニ撫育サレテ參リマシタ日本臣民ガ、其血液ニ絶エズ此觀念ヲ持ツテ參リ、將來モ永久 ニ之ヲ持ツテ參ルモノデアラウト思フノデアリマス、併ナガラソレ等ノ觀念ニ反スルヤウナ觀 念ガ、全然起リ得ナイトモ思ハレナイ、期待ハ出來ナイカモ知レマセヌ、ソレニ付テハ絶エズ 教學ノ上ニ於テ、適當ノ方法ヲ以テ將來子孫ノ中ニ、サウ云フ間違ツタ觀念ノ起ラナイヤウニ、

教育ノ方法ニ依ツテ之ヲ導クコトモ亦必要ナコトデアルト思フノデアリマス、大體政府ト致 シマシテ、此國體ニ付テノ觀念ハ只今申上ゲタコトニ依ツテ、寸分ノ疑問ハナイ筈デアルト思 フノデアリマス

ト解説サレタ政府ガ國體ノ觀念ニ關シ國民ノ理解ヲ要望セラルル點ハ之ニ盡ク此レ以外ニ要 望セラルル點ナシト解シテ誤ナキヤ

二 廣田首相ガ解説セラレタル前項ノ如キ理解ハ明治以後今日ノ國民ハ若シ一二ノ學者ニシテ 之ヲ違背スル考ヘ方ヲ有シタリトスレバ之ヲ除キ其ノ餘ハ悉ク之ヲ會得シテ居ルト觀察スル ノデアアルガ斯ク觀察スルニ尙ホ不足トセラルル點アリヤ若シ之アリトセバ其ノ不足トセラル ル點如何

三 文部省ハ國體明徴ニ關シ近ク何等カ改正補完センコトヲ期セラルルヤ

四 二月二十六日ノ事變ハ國體明徴ノ要求ニ何等カノ關係アリト認めラルルヤ若シ然ラバ其ノ 要領如何

國體ノ觀念ハ明徴ノ上ニモ明徴ヲ期セネバナラヌ廣田内閣ハ殊ニ之ヲ明確ナラシムベキ責任ヲ 有セラルルモノト信ズ政府ノ明確ナル答辯ヲ求ム

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月十六日田川大吉郎君提出ス同月二十六日廣田内閣總理大臣及平生文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一、政府ハ國民ノ國體觀念ヲ愈々明徴ニスル爲アラユル機會ヲ利用シ、アラユル方法ヲ以テ之ガ達成ヲ期スベク努力シツツアリ
 - 一、我が國體ノ精華ハ教育ニ關スル勅語ニ明示セサセ給フ所ナリ、文部省ニ於テハ從來此ノ聖旨ノ實現ニ努メ來リタルガ今後一層時勢ノ進運ニ鑑ミ教學ノ刷新、教育施設ノ擴充ニ努メ以テ國體明徴ノ徹底ヲ期セントス
 - 一、二月二十六日東京ニ起リタル事件ニ付テハ目下軍法會議ニ於テ審理中ニ屬シ茲ニ答辯シ難シ
- 右及答辯候

八 新聞紙法ノ改正並新聞記者ノ資格ニ關スル質問

新聞紙ハ社會ノ公器ニシテ之ニ携ハル新聞記者ノ人格如何學識經驗如何品位見識及其ノ舉措如何ハ以テ國家ノ公安秩序社會ノ進歩發達ニ至大ノ影響ヲ有スルヤ論ヲ俟タス而シテ近時新聞紙ノ數漸次多キヲ加ヘ新聞記者ノ數亦從テ著シク増加シ其ノ社會ニ及ホス影響モ亦益々重大ナリト謂フヘシ實ニ新聞記者ハ所謂社會ノ木鐸ニシテ社會一切ノ批評家ナリ無名ノ教育者ナリ指導者ナリ裁判官ナリ記者ノ一言一句ハ以テ輿論ヲ喚起シ世道人心ニ影響スル所洵ニ甚大ナリ

今日社會ノ公地位ハ何レモ夫レ夫レ相當ノ資格ニ待タサルハナシ然ルニ國家社會ノ公安秩序進歩發達ト極メテ密接且絶大ナル關係ヲ有スル新聞記者ノ資格ニ付何等規定スル所ナシ天下何人ト雖新聞記者タリ得サル者ナキノ現状ニ放任セラルルハ吾人ノ不可解千萬トスル所ナリ依テ政府カ新聞記者ノ資格認定ニ關スル規定ヲ設クルハ即チ國家社會ノ進歩發達幸福ヲ増進スル所以ニシテ須要且緊急ノ事項ナリト確信スルモノナリ

果シテ政府ハ右趣旨ヲ貫徹スル爲新聞紙法ヲ改正スルカ然ラヌムハ新聞記者ノ資格認定ニ關スル法令ヲ制定スルノ意アリヤ政府ノ所見如何

本員ハ昭和六年二月十四日濱口内閣ニ對シ本件ニ關スル質問ヲ爲シタリ之ニ對シ政府ハ「新聞記者ニ一定ノ資格ヲ設ケムトスルモ亦理由ナキニアラサレ共事極メテ重大ナルヲ以テ政府ニ於テハ目下慎重調査考究中ニ屬ス」トノ答辯ヲ爲シタリ其ノ後今日ニ至ル調査ノ經過果シテ如何廣田内閣ハ勇猛果敢斷然庶政ノ一新ヲ天下ニ聲明セリ本件ニ關スル確乎タル答辯ヲ求ム

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月十八日飯村五郎君提出ス同月二十六日潮内務大臣ハ書面ヲ以テ右ノ答辯ヲ爲ス

新聞紙ハ社會ノ公器ニシテ又之ニ携ハル新聞記者ノ言動ガ世道人心ニ重大ナル影響ヲ齎シ又文

化ノ進展ニ至大ノ關係ヲ有スルコトハ固ヨリ多言ヲ要セザル所ナルヲ以テ政府ニ於テモ夙ニ新聞記者ノ資格等ノ向上ニ付キ調査研究シツツアルモ、事極メテ重大ナルヲ以テ、未ダ成案ヲ得ルニ至ラズ
右及答辯候也

九 東京陸軍軍法會議ニ關スル質問

二二六事件ハ國家社會ニ及ボス影響實ニ甚大ニシテ且ツ本事件ニ關係シテ有罪ト認定サレ起訴セラレタル者ノ中ニハ軍規上上官ノ命令ニハ直ニ之ニ服從スベキ絶對的ノ義務ヲ有スル若干名ノ下士官及兵ト共ニ多數ノ常人ヲ含ンデ居ル元來裁判ハ其ノ事件ノ性質ガ重大デアレバアル程一層慎重ニ行ハネバナラスコトハ法ノ精神デアル然レバ現行法律ニ於テモ罪ノ重キモノニハ若シ被告人ガ辯護人ヲ選任セザルトキニハ官選辯護人ヲ強制的ニ選任スル斯クシナケレバ公判ヲ開クコトガ出來ナイヤウニ規定サレテ居ル此ノ精神カラスルト二二六事件ノ如キ重大ナル特異性ヲ有スル大事件ニハ必ず辯護人ヲ選任スルコト及上訴スルコトヲ許シ最モ慎重且ツ嚴肅ニ裁判スルコトガ當然デアリ又憲政治下ニ於ケル政府ノ義務デアル私ハ斯ノ如クニシテ始メテ將來ノ禍根ヲ芟除スル所以デアルト堅ク信ジテ疑ハナイ

然ルニ昭和十一年勅令第二十一號第六條ニハ「東京陸軍軍法會議ハ陸軍軍法會議法ノ適用ニ付テハ之ヲ特設軍法會議ト看做ス」ト規定サレテ居ル而シテ特設軍法會議ニ於テハ陸軍軍法會議法ノ規定ニ依ツテ辯護人ヲ選任スルコトガ出來ズ又上訴スルコトモ出來ナイ從ツテ東京陸軍軍法會議ニ於テモ辯護人ヲ選任スルコトモ上訴スルコトモ出來ナイノデアアルソコデ私ハ政府ガ本事件ノ如キ重大ナル特異性ヲ有スル大事件ノ裁判ニ對シ何故辯護人モ附セズ上訴モ許サナイヤウニ勅令ニ規定シタルデアアルカ此ノ點ニ付テ政府ノ所見ヲ質シタイ
而シテ陸軍軍法會議法ニ依レバ特設軍法會議ヲ特設スベキ場合ハ同法第九條第二項以下ニ次ノ如ク明記サレテ居ル

「軍軍法會議、獨立師團軍法會議、獨立混成旅團軍法會議及兵站軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ之ヲ特設ス

合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス

臨時軍法會議ハ戰時時變ニ際シ必要ニ因リ特設又ハ分駐シタル陸軍ノ部隊ニ之ヲ特設ス」
之ヲ按ズルニ特設軍法會議ニ於テ辯護人ヲ選任スルコト及上訴スルコトヲ許サナイ所以ノモノハ前記第九條ノ條文ノ示ス如ク軍法會議ガ戰時事變又ハ合圍地境等ニ於テ兵馬倥傯ノ間ニ設ケラレタルモノデアアルカラ斯クノ如キ地ニハ固ヨリ辯護人ヲ得ルコトハ甚シク困難ノ場合ガ多イ

ノデアアル假令辯護人ヲ得ルトシテモ戰時事變又ハ合圍地境ニテ辯護人ヲ附シ上訴ヲ許スヤウナ時間ノ餘裕ガナイノミナラズ法ノ精神ニ遵ヒ人權ヲ尊重スルコトヨリモヨリ以上ニ戰時事變又ハ合圍地境ニ於ケル軍本來ノ目的ニ全力ヲ集中スルコトヲ緊要トスル眞ニ事情已ムヲ得ナイ戰時又ハ事變ノ狀態デアアルカラデアアル換言スレバ戰時事變ノ情況上假令人權ヲ剝奪スルモ國家ノ大事ニハ代ヘ難イ理由ニ據ルモノデアアル然シナガラ本事件ノ場合ヲ考フルニ事件ハ二月二十九日ニ鎮定シタコトハ當局ノ發表スル所デアリ東京陸軍軍法會議ニ關スル勅令ハ越エテ三月四日ノ發布デアアルカラ戒嚴令ハ布カレテアルガ事變既ニ鎮定シテ居ルコトハ明瞭ナ事實デアアル而モ今回ノ事件ノ公判ハ全ク平時狀態ニ在ル四月下旬ヨリ開廷セラレテ居ルノデアアルカラ東京陸軍軍法會議ヲ特設軍法會議ト看做シ法律ニ依ツテ保證サレテ居ル人民ノ重大ナル權利ヲ剝奪シテ辯護人ヲ附スルコトモ上訴スルコトモ許サナイコトハ如何ニ考フルモ解シ得ナイ非立憲行爲ト斷ゼザルヲ得ナイ而シテ國民ハ公判ノ手續ニ付テ揣摩臆測ヲ逞シクシテ居ルノデアアルガ之ハ皇軍ノ威信上カラ甚ダ遺憾トスルノミナラズ憲政ノ確立ト言フ點カラ見テモ人民ノ權利ヲ極端ニ拘束スルコトハ洵ニ痛歎ニ堪ヘナイ次第デアアル故ニ國民ノ疑惑ヲ深カラシムルコトハ努メテ之ヲ避ケ正々堂々ト辯護人ヲ附シ上訴モ許シ最モ嚴肅ニ裁判セララルコトガ特ニ緊要ト信ズルノデアアル殊ニ私ガ此ノ主張ヲ爲ス所以ノモノハ幸徳、難波ノ如キ滔天ノ大逆事件ニ於テサヘモ法ノ精神

ヲ拘ミ辯護人ヲ附シテ裁判シタノデアアルニモ拘ラズ何故ニ今回ノ事件ニ限り辯護人ノ選任ヲ許サナイノデアアルカ其ノ理由ヲ發見スルコトガ出來ナイノデアアル
政府ハ何故ニ二二六事件ヲ裁判スル爲東京陸軍軍法會議ヲ特設軍法會議ト看做シ事情之ヲ許スニモ拘ラズ法律ニ依リ保障セラレタル人民ノ權利ヲ剝奪シテ辯護人ノ選任及上訴ヲ許サナイヤウニ規定シタノデアアルカ其ノ理由ヲ内閣總理大臣及陸軍大臣ヨリ明瞭ニ答辯セラレムコトヲオ願ヒスル次第デアアル

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月十九日江藤源九郎君提出ス同月二十四日提出者ニ於テ撤回セリ

一〇 全國購買組合聯合會ノ賣藥取扱禁止ニ關スル質問

近時産業組合ニ對スル政府ノ保護助成ハ益々強化ノ一途ヲ辿リ爲ニ産業組合カ其ノ本來ノ使命ヲ逸脱シ其ノ結果隨所ニ中小商工業者ヲ壓迫シ之ト對立抗爭ヲ現出スルニ至リタルハ寔ニ遺憾トスル所ナリ

産業組合ハ國費地方費ノ補助助成ヲ受ケ各種租稅公課及手数料ヲ減免セラレ且低利資金ノ融通

ヲ受クル等幾多ノ特典ヲ有スルニ反シ一般商工業者ハ夫レ夫レ自己資本ニ依テ經營シ且國民三
大義務ノ一タル納稅ノ義務ヲ果シツアルヲ見レハ自ラ産業組合ノ領域ハ明白ニシテ之ヲ事業
化シ營利化スヘカラサルコト言フ俟タサル所ナリ然ルニ現時産業組合ノ猛威ハ全國至ル所ニ振
ハレ商工業者カ既得ノ商權領域ヲ侵サルルコト甚シキモノアリ斯ノ如キ結果ヲ呈スルニ至リタ
ルハ産業組合ニ對スル當局ノ措置カ保護助長ノミニ捉ハレ指導監督ニ缺クル所アルニ非サルカ
殊ニ近來特殊法規ノ下ニ統制セラレツアル賣藥ノ本質ト其ノ使命トヲ顧ミス全國購買組合聯
合會カ賣藥業ニ進出シ既ニ年額數百萬圓ニ達スル厯大ナル取扱ヲ爲シツツアルカ如キハ賣藥取
締ノ精神ニ反シ且當業者ヲ壓迫スルノミナラス國民保健上ヨリ見ルモ看過スヘカラサル所ナリ
ト信ス賣藥ハ公衆カ醫師ノ指揮ヲ俟タス自己判斷ニ依リ疾病治療ノ用ニ供スルモノナルヲ以テ
其ノ及ホス影響ハ極メテ重要ナリ是レ即チ賣藥ノ製造及販賣カ特殊資格者ニ限定セラレ且其ノ
取扱ニ於テ嚴重ナル取締ヲ受クル所以ナリ然レトモ現行賣藥法規ニ於テハ未タ賣藥ヲ醫業ト同
様ニ取締ルヘキ確タル規定ナキニ乘シ全國購買組合聯合會ハ之ヲ恰モ一般雜貨類ト同一視シ昭
和八年以來産業組合ノ細胞組織的配給機關ヲ利用シ以テ賣藥ノ大量配給ニ著手シ事業開始以來
僅々數年ナラスシテ數百萬圓ノ賣上ヲ收メ其ノ收益亦百萬圓ニ及フト稱セララルニ至レリ爾來
全國ノ賣藥業者ハ非常ナル打撃ヲ被リ今日ノ事態ヲ放置スルニ於テハ全國二百萬人ニ及フ賣藥

業者及其ノ家族ハ全ク窮地ニ陥ルヘキ慘狀ヲ呈スヘシ而シテ國家カ賣藥ノ製造ヲ専門的知識素
養アル者ニ限定シ其ノ販賣ニ於テモ免許營業者ニ限定セル所以ノモノハ疾病治療ノ重要性ニ鑑
ミ賣藥ノ品質ヲ確實ニシ且其ノ取扱ニ對シ責任ヲ持タシメムトスルニアルモノト言フヘシ然ル
ニ賣藥ヲ一般雜貨ト等シク産業組合ノ如キ組織體ニ取扱ハシムルカ如キハ國民保健衛生上ニ及
ホス危險又甚大ナリト信ス仍テ政府ハ産業組合ヲシテ本來ノ使命領域ニ還元セシメテ領域ノ不
當ナル進出ヲ制シ組合商工業者間ノ調整ニ努ムヘキノミナラス特ニ賣藥ニ關シテハ速ニ産業組
合ノ製藥及賣藥ヲ禁制スルノ方途ヲ講スルノ要極メテ切ナルモノアリト信ス此ノ點ニ就キ政府
ハ如何ナル所見ヲ有セラルルヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月十九日中村梅吉君提出ス同月二十六日島田農林大臣ハ書面ヲ以テ
左ノ答辯ヲ爲ス

農山漁村ノ現狀ニ鑑ミ廉價且至便ニ賣藥ヲ配給スルコトハ緊要ナリト認ム
全國購買組合聯合會ニ於ケル賣藥ノ取扱ハ一般ノ賣藥業者ト同一ノ取締監督ノ下ニ之ヲ行ヒツ
ツアリ
尙産業組合ノ運営ノ適正ヲ期スル爲之カ指導監督ノ徹底ヲ圖ラントス
右及答辯候也

一一 華族制度改正ニ關スル質問

第一 政府ハ速ニ華族制度ヲ根本的ニ改メ皇室典範ニ定メラレタル以外ノ臣民トシテノ華族制ヲ改正スル爲ニ政府トシテ之ヲ上奏スル意思ナキヤ

現在スル華族制度ノ沿革ヲ見ルニ明治維新ニ當リ時ノ政府ハ累積セル徳川封建時代ノ秕政ヲ革新スベク舊身分制度ノ改廢ヲ斷行シタ即チ明治二年公卿諸侯ヲ廢シテ華族トシ中下大夫、下士等ノ稱ヲ廢シテ凡テヲ士族ト卒トノ二ト爲シ更ニ明治五年ニハ士族ト卒ヲ合セテ士族トシタ尙之ヨリ先明治四年ニハ所謂解放令ヲ發布シテ被壓迫部落大衆ヲ平民ノ列ニ加ヘタ斯クシテ舊身分制度ハ一應形式的ニハ廢止サレタ當初明治維新政府ガ公卿諸侯ヲ廢止シテ華族ト爲セルハ唯空名ノミヲ與ヘントシタノデアアルガ其ノ後幾許モナクシテ憲法發布ニ先立チテ華族ハ再ビ特權アル一ツノ身分トシテ形成サレルニ至ツタ是レハ實ニ一度廢止サレタル封建的身分制度ノ延長デアリ而シテ之コソ明治維新ノ精神タル『舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ』ノ本領ヲ破壞シ國民平等ノ原則ヲ攪亂シ之アルガ爲ニ諸々ノ社會的政治的不合理ト矛盾トヲ生ミ出シテ來タ實ニ今日ノ華族制度ノ存在コソハ現社會ニ於ケル矛盾ト不合理トノ最大ナル

モノデアアル明治十七年ノ華族令公布當時ニ於ケル華族數ハ五百十二デアツタガ其ノ後漸次増加シテ現在デハ九百五十六ニ達シ此ノ中初代ハ百三十五他ハ何レモ二代三代デアアル而シテ之ガ總人口ハ約五千五百人ト算ヘラレテキル凡ソ國家ノ賞罰ハ子々孫々ニ及バザルヲ以テ原則トシテキル然ルニ賞トシテ與ヘラレタル華族ノ特權ノミハ獨リ子々孫々ニ及ンデキルノデアアルラバ現在華族ハ如何ナル特權ヲ有シテラルカト云フニ身分上ノ特權トシテハ華族令第四條ニ依リ其ノ爵位ニ應ジテ一家眷族タルモノハ社會上其ノ他華族トシテ上位ノ禮遇ヲ享ケ又華族タルモノハ低腦デアツテモ遊民ノ徒デアツテモ襲爵スレバ位階令第二條第一號ニ依リ『國家ニ勳功アリ又ハ表彰スヘキ效績アルモノ』ト同ジク位階ヲ賜リ最下位ノ男爵ハ從五位ニ敍セラレル或ハ堂上華族ニ至ツテハ身分上ノ特權ヲ利用シテ資本家富豪ト婚姻スル者ガ頗ル多イ又經濟上ノ特權トシテハ華族世襲財產法ニ依リ家寶、不動産、登録國債、記名有價證券ヲ世襲財產トシテ設定シ民事上ノ理由ニ依ル差押、競賣ヲ禁ジテ之ヲ保護シテラル又右ノ中不動産ニ付テハ永小作、地上權ノ條件ハ宮内大臣ノ認可ヲ要スルコトトナツテラル爲ニ華族ノ中ニハ此ノ特權ヲ利用シテ小作人ヤ借地人ヲ苦シメル者ガキル蜂須賀侯ノ經營スル北海道蜂須賀農園ノ小作爭議ノ如キハ其ノ一例デアアル而モ堂上華族ハ保護資金令(基金ハ恩賜金ヲ基礎ニ百萬圓)ニ依リ毎年一定ノ補助金ヲ受ケテキル更ニ政治上ノ特權ニ至ツテハ矛盾ト不合理トノ最大

ナルモノガアル僅ニ五千五百名ニ過ギヌ華族ハ貴族院ノ約半數ヲ占メテキル之ヲ國民大衆ノ約七千萬人(内地人口)ニテ衆議院ヲ占メテアルコトト比較スルトキハ吾々ハ華族ノ特權的參政權ノ偏重サニ驚カザルヲ得ナイ

斯カル政治的特權ニ伴フ經濟的特權ヲ利用シテ彼等華族ハ「インチキ」會社ノ社長、財閥資本事業ノ重役、特ニ國家資本(官營事業)ノ重役又ハ産業團體ノ會長等ニ就任スルコトハ顯著ナル事實ニシテ貴族院議員ノ利權トシテ世ニ周知サレテキル

以上大略ヲ列舉シテモ斯ノ如クデアル今日華族制度ガ現在ノ儘ニ存置サレルト云フコトハ彼等少數華族ガ身分上、經濟上、政治上ニ於ケル有ユル特權ヲ利用シ財閥、官僚ト結託シテ極度ニ社會ヲ毒シ國民ノ絶對多數ヲ占メル勞働者、農民、中小商工業、俸給生活者等ノ勤勞大衆ヲ政治的無權利ニ陷レ併セテ經濟的缺陷ノ爲極度ノ生活窮乏状態ニ追込シ居ル殊ニ被壓迫部落大衆ハ對蹠的存在トシテ悲惨ノ極ミニ置カレテキル一方ニ有ユル特權ヲ有スル上層身分ノ存置サレルコトハ他方ニ於テ有ユル權利ヲ奪ハレ壓迫サレル大衆ノ存在スル對蹠的關係ヲ生ミ出シテ來ルノデアル特權階級タル現在ノ華族制度ノ存在ガ今日如何ニ社會ヲ毒シ國民生活ヲ不安ニ導イテキルカハ識者ノ等シク認ムル所デアル教學ノ刷新ヲ企圖シ國民教化ニ努力シツツアル政府當局者ハ機會アル毎ニ「我が國ハ同一種系ノ民族ノ血ヲ成セルモノニシテ上

御一人下萬民ノ國體ナルガ故ニ一國一家族ノ邦ナリ」ト説イテキル若シ當局者ノ謂ヘル所ガ眞實デアルナラバ一君萬民ノ我が國ニ何等差別待遇ハナイ筈デアリ又アツテハナラナイノデアル然ルニ現制度ニ於テハ一方ニ華族制度ヲ設ケテ有ユル特權ヲ與ヘ他方ニ於テハ有ユル政治的經濟的劣惡ヲ強制サレテキル國民大衆就中最悲惨ナル境遇ニ壓シツケラレテキル部落大衆ヲ存在セシメテキル今日國民ノ絶對多數ヲ占ムル特權ナキ大衆ハ憲法ニ依ツテ保證サレテキル筈ノ人民的自由ト權利スラ十分ニ持ツテキナイ斯クノ如ク一方ニ與ヘ一方ヲ奪フ差別待遇ヲ以テシナガラ日本ハ是デモ家族國家ナリト言ヒ得ルデアラウカ斷ジテ否デアル

第二 政府ニ於テ若シ華族制度ノ改正ヲ上奏スルノ意思ガナイトスレバ政府ハ華族ノ身分上及政治上ノ特權ヲ形式ニノミ止ムベク之ガ手續ヲ取ルノ意思ナキヤ

第三 華族制度ノ改正ニ拘ラズ政府ハ貴族院ノ權限ヲ徹底的ニ縮少スベク之ヲ上奏御裁可ヲ仰グ意思ナキヤ

第四 華族ニ對シテ有ユル經濟的、政治的特權ヲ與ヘ保護ヲ加ヘテキル政府ハ國民生活ノ安定ニ資スベク殊ニ勞働者農民及中小商工業者保護救済ノ爲ニ徹底セル諸種ノ社會立法ヲ制定スルノ意思ナキヤ

第五 融和問題ノ根本的解決ノ爲ニ政府ハ部落産業經濟振興施設ノ爲ノ地方改善費ヲ最少限度

年額千萬圓支出スル意思ナキヤ

從來被壓迫部落大衆ノ爲ト稱シテ支出サレタル地方改善費ハ姑息ナル申譯主義ヲ一步モ出テキナイ融和團體ノ所謂「十箇年計畫」ニ依ツテ要求セル豫算スラ之ヲ承認セズ僅ニ百二十數萬圓ヲ計上シテキルニ過ギナイ然モ此ノ僅少ナル施設費スラ從來ニ於テハ不正ナル使途ニ費ヤサレテキルモノガ少クナイ

政府が大正九年以來支出シタル地方改善費ノ總額ハ千三百萬圓ニモ達セズ之ヲ彼ノ維新當時身分制度廢止ニ當リ大名、武士團ノ生活保證ト生業資金トニ與ヘタル秩祿代償總額二億一千三百二十五萬圓ニ比較スレバ其ノ實質價值ニ於テハ實ニ千分の一ニモ當ラナイデアラウ然ルニ維新政府ハ被壓迫部落大衆ニ一體何ヲ與ヘタカ解放令ニ依ツテ自由ト平等トヲ與ヘタリト云フガ其ノ自由トハ無產者トシテ財閥資本ノ恣ヒママンナル搾取ニ晒サレル自由デアリ其ノ平等トハ苛酷ナル國民的義務負擔ノ平等以外ノ何物デモナカツタノデアル嘗テハ空名ヲ與ヘルノミト稱シナガラ華族ニ特權ヲ與ヘタル政府ハ反對ニ解放スルト稱シテ被壓迫部落大衆ニハ一片ノ空文ヲ與ヘタルノミデアル而シテ此ノ事ガ對峙スル二ツノ封建的身分ノ遺制ヲ今日ノ社會ニ殘ス所ノ原因トナツテキル今日被壓迫部落大衆ハ封建主義ノ殘滓タル身分的偏見ノ爲ニ社會生活ノ有ユル領域ニ互ツテ差別サレテキル殊ニ其ノ生活狀態ハ殆ド社會ノ「ド

ン」底ニ突落サレテキルト言ツテモ過言デナク之ヲ諸種ノ統計ニ於テ看ルニ概ネ其ノ經濟力ハ一般ノ夫レニ比シテ四分ノ一程度ニ過ギズ個々ノ生活ヲ維持スル能力スラ缺除シテキル現状デアルスノ如キ原因ハ永イ間ノ差別迫害ノ爲一切ノ人民的權利ト有ユル機會均等トガ拒否セラレ營業、就職、教育等ノ自由ガ妨害サレタル結果ニ依ルモノデアルガ今日デハ逆ニ斯ル現象ガ反面ニ於テハ部落大衆ニ對スル差別ヲ助長スル要因トナリ其ノ事ガ更ニ又部落大衆ノ生活水準ヲ下ヘ下ヘト落シツツアルノデアル從ツテ斯ル部落大衆ノ生活ヲ徹底的ニ保護救済シ其ノ水準ヲ昂メルコトコソ融和問題解決ノ爲ノ根本的條件デアル此ノ意味ニ於テ政府ハ最少限度年額千萬圓程度ヲ支出シ全額國庫負擔ニ依リ部落ノ産業、經濟、環境、文化ノ諸施設ヲ徹底的ニ實施スル責任ト義務ヲ有スルモノト信ズルノデアル

「庶政一新」ヲ國民ニ約束セル政府ハ一切ノ國民間ノ不平等ヲ撤廢シ眞ノ意味ニ於ケル國民融和ヲ圖ルト共ニ國民生活ノ安定ヲ期スベク其ノ爲ニハ今日ノ社會不安ノ最大ナル要因トナル所ノ封建的身分制ノ遺制タル華族制度ヲ根本的ニ改メ之ヲ撤廢スル爲ニ努力スベキデアル之コソ現政府ガ廣ク天下ニ聲明セル國政一新ヲ實踐ニ移ス第一歩ナリト考ヘルモノデアル

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月二十日松本次一郎君提出ス同月二十六日廣田内閣總理大臣及潮内

務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一、華族ニ關シテハ宮内省ノ管掌スル所ナルヲ以テ政府ハ答辯ヲ差控ヘタシ
- 一、貴族院ノ制度ノ改革ニ付テハ這般貴族院ニ於ケル建議ノ次第モアリ十分善處スル考ナリ
- 一、國民生活ノ安定ハアラユル分野ニ於テ政府ノ極力努力セントスル所ナリ
- 一、融和問題ニ關シテハ將來一層力ヲ竭ス考ナルモ、地方改善費ノ支出限度ハ今俄ニ言明シ難シ

右及答辯候

一二 國民健康保險法制定ニ關スル質問

- 一、政府ハ本期議會中唯一ノ社會立法トシテ退職積立金及退職手當法案ノ通過ニ努力セラレツツアルカ如キモ右法案以上ニ更ニ重大社會立法タル國民健康保險法ヲ既ニ立案セラルト聞ク政府ハ次期議會ニ右國民健康保險法案ヲ必ス提出スル意思ヲ有スルヤ
- 二、現行政府管掌健康保險實施狀況ヲ見ルニ其ノ保險醫ニ對スル被保險者ノ不滿著シキモノアリ然ルニ之等被保險者ノ多數カ參加シテ自ラ設立シタル醫療利用組合ハ從來ノ保險醫タル開業醫ニ比シテ遙ニ優秀ナル近代的綜合的醫療設備ヲ有スルニ拘ラス此等組合ニ勤務スル醫師ハ未タ保險醫ニ指定セラレズ誠ニ不穩當ナル實情ニアリ元來健康保險ノ運用ハ保險者タル國

家カ被保險者ノ福利増進ノ爲ニスヘキモノナルニ拘ラス現狀ハサナカラ日本醫師會カ開業醫ノ利益ノ爲ニ之ヲ經營シ居ルカ如キ感アリ政府ハ何故ニ醫療利用組合ヲシテ速ニ保險醫ニ指定セラレルヤウ善處セラレサルヤ

三、又醫療利用組合ニ對シテ政府ハ健康保險醫療給付ニ關シ直接契約ヲ爲ス意思アリヤ右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月二十二日三宅正一君外一名提出又同月二十六日潮內務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一、國民健康保險制度ニ關シテハ目下調査考究中ナリ
- 二、醫療利用組合ノ組合員タル被保險者ニ對スル當該病院利用方ノ要望アルコトニ關シテハ慎重攻究シツ、アリ
- 三、醫療利用組合トノ直接契約ニ關シテモ研究中ニ屬ス

右及答辯候

一三 法律事務取扱ノ取締ニ關スル質問

- 一、昭和十一年四月一日ヨリ實施セラレタル法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律ハ辯護士ノ地位ノ向上ヲ計リ國民ノ法律生活ノ安固ヲ保證スル爲ニ制定セラレタルモノナルカ本法實施ノ結

果各地ノ裁判所、執達吏役場、公證人役場等ノ事件數邊ニ激減シタリト言フ果シテ實ナリヤ

二 從來國民ノ要求ニ依リテ法律事務取扱ニ從事セシ全國約十數萬人ノ所謂非辯護士ノ法律事務取扱ヲ禁止シタル爲ニ斯ル結果ヲ醸成シタルニ非スヤ

三 本法實施ノ結果一般國民ハ簡易ニ權利行使ヲ遂行スル機關ヲ喪ヒ徒ニ權利ノ上ニ眠ラサルヲ得サル結果トナリ却テ惡質ナル債務者ノ不誠意ヲ助長シ信義、誠實ノ醇風美俗ヲ破壊スルノ虞ナキヤ

四 僅々六千餘人ノ辯護士ノミニ全國民ノ法律事務ヲ取扱ハシムルト言フカ如キハ却テ國民ノ法律生活ヲ破壊スルモノニ非スヤ

五 凡ソ立法精神ハ大衆ノ利益ヲ擁護シ少數ノ利益ヲ犧牲ニスルモノナルニ拘ラス本法ノ如キハ其ノ反對ニ少數ノ辯護士ノミヲ保護セムトシテ一般國民ノ利便ヲ無視スル社會ノ實情ニ即セサルモノナレハ之ヲ改正スル意思ナキヤ

六 同法第一條ノ正當ナル業務トハ個人ノ金融業、仲介業等ヲ包含スルヤ

七 金融業者カ債權擁護ノ目的ヲ以テ第一條ノ行爲ヲ爲シ直接又ハ間接ニ利益ヲ得タル場合本法ニ抵觸スルヤ

八 家屋管理業者カ家屋管理ノ目的ヲ以テ第一條ノ行爲ヲ爲シ利益ヲ得タル場合ハ本法ニ抵觸スルヤ

スルヤ

九 不動産賣買及金融仲介ヲ業トスル者カ其ノ業務ノ遂行ニ當リ第一條ノ行爲ヲ爲シ利益ヲ得タル場合ハ本法ニ抵觸スルヤ

一〇 有給ノ使用人カ雇主ノ命令ニテ前項ノ行爲ヲ爲シタル場合本法ニ抵觸スルヤ

一一 辯護士ニ非サル者カ他人ノ委任ヲ受ケ公正證書作成又ハ不動産登記ノ行爲ヲ繰返シ報酬ヲ受ケ其ノ結果紛議ノ發生シタル場合本法ニ抵觸スルヤ

一二 辯護士ニ非サル者カ數人ヨリ個々ニ不動産又ハ動産ノ差押、同假差押、同競賣事件等ノ立會立之ニ附帶スル事項ノ委任ヲ受ケ右ノ行爲ヲ爲シ謝禮ヲ受ケタル場合本法ニ抵觸スルヤ

一三 金融業者カ債務者ノ懇請ニ依リ債權回收ノ便法トシテ債務者又ハ之ニ從屬スル者ヨリ債權讓渡ヲ受クルコトヲ繰返ス行爲ハ本法ニ抵觸スルヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月二十二日枡谷寅吉君提出ス同月二十六日林司法大臣ハ書面ヲ以テ右ノ答辯ヲ爲ス

一〇一 法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律ハ本年四月一日ヨリ實施セラレタルモノニシテ實施後日尙ホ淺ク未タ各地ノ報告ニ接セサルニヨリ統計ニ基キテ明確ナル回答ヲ爲スコトヲ得サ

ル母今日マテ判明セル若干ノ地方ニ於ケル狀況ニ徴スルモ質問ニ係ルカ如キ事實ナキモノト
 思料セラル
 三乃至五 法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律ハ從來非辯護士カ法律事務ヲ取扱ヒタルカ爲ニ生
 シタル弊害ヲ芟除シ以テ國民ノ法律生活ノ安固ヲ保障スルコトヲ目的トシタルモノニシテ敢
 テ辯護士個人ノ私的利益ヲ保護スルコトヲ以テ其ノ本旨トシタルモノニハ非シ蓋シ辯護士ハ
 司法事務ヲ輔翼スル重要ナル機關ニシテ之ヲシテ専ラ法律事務ヲ取扱ハシムルコトハ國民ノ
 法律生活ノ安固ト司法事務ノ的確ナル運用トヲ期スル所以ナルヲ以テナリ本法ノ實施ニ因リ
 テ國民ノ良俗ヲ破壊スルモノナリト云フカ如キコトハ之ヲ是認スルコトヲ得ス
 六、個人ノ業務ト雖社會ノ通念上正當ナル業務ナリト認ムヘキ場合ニ於テハ第一條但書ニ所謂
 正當ノ業務ニ該當スレトモ本條但書ノ適用アルカ爲ニハ正當業務ノ遂行上之ニ附隨シテ本
 二掲クル行爲ヲ爲スコトカ必要止ムヲ得サル場合ニ限ルモノト解ス
 七乃至一三 法第一條ニ「業トスルコト」ト云フハ收利ノ目的ヲ以テ同種ノ行爲ヲ反覆繼續スル
 コトヲ謂フ而シテ質問ニ係ル諸項ハ具體的事案ニ甚シク近接スルニヨリ裁判ニ依ルコトナク
 豫メ之カ本法ニ牴觸スルヤ否ヤヲ明言スルコトハ之ヲ差控ヘ度シ
 右及答辯候也

一四 宗教行政ニ關スル質問

一 政府ハ教學刷新ヲ高調セラルルカ宗教界ニ對シテモ刷新スヘキモノ多々アリト思フ殊ニ類
 似宗教團體カ簇出シ社會風教ノ爲人心ニ惡影響ヲ及ホスモノアリ寒心ニ堪ヘス之カ取締ニ付

テ如何ニ考慮セラルルヤ

- 1 大本教ノ如キハ結社組織ニテ宗教的行爲ヲ爲シ來リタルモノニシテ這般ノ檢舉ニ依リ不
 祥事ヲ暴露シタルハ甚タ遺憾ニ感スル次第ナリ同教ハ先年國法ニ觸レ制裁ヲ受ケタルニモ
 拘ラス再ヒ國法ニ觸ルル如キ行動ニ出テタルハ取締不行届ノ結果ニ非スヤ
- 2 天理教會ノ脱税問題、金光教管長ノ戸籍上ノ爭議ニ因ル信徒間ノ抗爭或ハ扶桑教ニ屬ス
 ル「人ノ道教」ノ獨立的行動ノ如キニ付テハ各其ノ教義ニ違反スルモノト認サルヤ
- 3 佛教各宗管長布教ノ爲地方へ出張シタルトキ之カ歡迎ニ當ル僧侶及檀信徒ニシテ「奉迎」
 ト稱スルコトハ僭越ノ行爲トナルニ非スヤ
 又各宗派ノ宗會ニ於テ管長ハ教諭ヲ發シ之ニ對シ宗會カ答申スル場合「奉答」ト稱スルコト
 ハ宗會ノ速記録ニ掲載シアル事實ナリ管長並僧侶ノ斯ル行爲ハ非常識僭越ノ沙汰ニ非サル
 カ極論セハ不敬ノ行爲トナルニ非スヤ是等ニ對シ如何ナル認識ヲ有セラルルヤ
- 4 文部大臣ハ各宗派管長ニ對スル監督作用ヲ公正妥當ニ爲シツツアリヤ願ルニ大正二年四
 月宗教局カ文部省ニ移管セラレテヨリ文部大臣ハ大正五年三月眞言宗豊山派管長岩堀某氏
 ニ對シ宗會議員選舉ニ付選舉告達カ宗規ニ違反スル點アリトシ之カ取消シヲ爲ササル事由
 ヲ以テ終ニ管長職ヲ解キタリ又同年眞言宗智山派管長伊藤某氏カ宗務長選舉ニ付不當ノ處

置アリトシ宗派取締ノ責任ヲ追究シテ終ニ管長職ヲ解キタリ又同六年眞言本派本願寺派管長事務取扱六雄某氏ニ對シテハ宗派ノ統制ノ力量無シトシテ退職ヲ強制的ニ勸告シ退職セシメタリ恰モ下級官吏ヲ處分スル如キ態度ヲ以テ處理シ嚴重ナル監督ヲ勵行シタリ然ルニ近來ハ各宗派管長カ不法ニ任職ノ任免ヲ爲シ或ハ管長選舉宗會議員選舉ニ關シ醜惡極マル行爲ヲ爲スモノアリ依テ之カ是正ヲ主務大臣ニ請願スル者アリト雖適當ナル監督ヲ敢テ爲ササルカ如キ感アルハ監督作用カ甚ク弛緩シタルニ由ルニ非サルカ

5 愛媛縣温泉郡道後湯之町眞言宗豐山派ニ屬スル石牛寺住職問題ニ付昭和八年十月ヨリ關係者間ニ紛争ヲ醸シツツアリタル所昭和九年二月十七日豐山派管長ハ其ノ係争ニ對シ裁定ヲ下シタリ然ルニ其ノ後裁定ノ趣旨ヲ没却シ昭和十年九月三日豐山派僧侶ニシテ現ニ九州大學教授タル重松俊章ヲ石牛寺住職ニ任命シタリ重松俊章ハ本職ハ九州大學教授ニシテ石牛寺住職タルニハ官吏ノ服務規律上他ノ職ヲ兼ヌルニ於テハ當然大學總長ノ承認ヲ求メ許容アリタル後住職任命ヲ受タヘキニ其ノ手續ヲ取ラス又豐山派管長ハ其ノ裁定ニ於テ住職ハ寺ニ常在スヘキコトヲ至當トシナカラ尙且常在シ能ハサル重松俊章ヲ石牛寺住職トシテ任命シタルハ不法ナルニ付任命ヲ取消シ以テ宗規ノ維持ト宗門ノ綱紀肅正トヲ計ラレタキ旨陳情セル者アルニ拘ラス今ニ至ルモ解決ヲ見サルハ是レ主務大臣カ監督ヲ等閑ニ付シ居

ルカ爲ニ非スヤ

現今ノ法制ニテハ宗規違反事項アルモ之カ是正ヲ求メ不法處分ノ救濟ヲ得ルノ道ハ監督長官タル文部大臣ニ請願スル外ナキカ如キハ明ニ國法上ノ不備ト謂フヘク而モ此ノ法規改正ニ依ルニ非ストセハ文部大臣タル者ハ宜シク宗教團體ニ對シテ一層適正ナル監督ヲ爲ス必要アリト信ス

二 明治十七年八月十一日太政官布達第十九號教導職ヲ廢シ教宗派ノ取締ヲ管長ニ委任ノ件ニ規定セル委任ノ權限ヲ如何ニ解釋セラルルヤ司法官ト行政官トハ多少異リタル解釋ヲ爲スヘキニ非スヤ大審院民事判例ニ依レハ「宗制ハ明治十七年太政官第十九號布達ニ基キ制定シタルモノナルヲ以テ宗教上ニ於テハ法律タル效力ヲ有ス」トアリ又大正六年東京控訴院民事第一二部ノ判例ニ依レハ「宗教ハ社會上ノ一大勢力ニシテ人生共同生活ノ一大要件ヲ爲シ寺院住職ノ任免ハ公益ニ至大ナル影響ヲ及ホスモノト認メタルカ故ニ其ノ任免ノ權ヲ國家ニ留保シ各宗又ハ各派ノ管長ニ委任シテ之ヲ行使セシメタルモノト解スルヲ相當トス」トアリ何レモ國家行政ノ一部ヲ委任シタルモノト解釋ヲ爲ス然ルニ行政官ノ意味ハ斯ノ如ク嚴格ニ之ヲ解セシテ單ニ各宗各派ノ自治ニ委任シタルモノト解スヘキモノノ如ク思考セラルルカ果シテ政府ノ公正妥當ナル解釋モ然ルカ如何

三 佛教各宗派ノ管長選舉及宗會議員選舉ニ就キ賄賂ヲ以テ投票行使シタル者ニ對シ司法官ハ舊刑法第九節公選ノ投票ヲ偽造スル罪、第二百三十三條第二、三十四條ヲ適用シタルカ文部大臣ハ管長選舉及宗會議員選舉ヲ公選ノ投票行使ト看做スヤ否ヤ

四 明治十四年七月二十一日内務省達乙第三十三號(府縣)社寺檀信徒總代選定ニ關スル件中「社寺收入財産(田畑山林ノ所得ハ勿論養物祈禱葬儀回向料等一切ノ受納物ヲ云フ)其共有ニ屬スヘキモノト其神官任職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相達候事」トアリ告達當時ハ各社寺ヨリ其ノ豫約書即チ豫算書ヲ届出テシメタリ今尙届出ヲ爲サシムルモノナリヤ

寺院ノ收入ハ凡テ寺即チ法人ノ所得ニシテ任職ノ生活費ハ寺法人カ一切賄ヒ居ルト解釋スル者アリ又任職ノ生活ハ家族ト同棲シ居ル以上私生活ナルヲ以テ寺法人ノ所得中ヨリ供給ヲ受ケ居ルモノト解スル者アリ地方ニ於テ市町村カ戸數割ヲ寺有財産ヲ標準トシテ賦課スレハ任職ハ寺ノ財産ハ管理シ居ルノミト主張シ往々行政訴訟ヲ提起シテ争フ者アリ前段ノ告達ニ準シ豫算制ヲ實行セサル結果ニ非サルカ

寺院任職カ寺院所得ヲ全部管理個人收得シ其ノ多キハ數萬圓ニ達スルモノアリテ然モ所得稅賦課ヲ免レ居ル如キ實情アリ是レ亦豫算書ヲ届出テシメサル缺點ニ非スヤ

五 政府ハ宗教法案ヲ提出スル方針ナリヤ憲法發布以來獨リ宗教制度ノミ太政官布達ニ依リ律シ居リ是迄三度貴族院ニ提出セラレタル宗教法案モ同院ニ於テ否決又ハ審議未了ニ終リテ成立ヲ見サル爲宗教取締上不徹底ノ點少カラサルモノアリト信ス政府ハ次期通常議會ニ提案セラルルヤ否ヤ

六 大正十二年度豫算案ニ羅馬法王廳ト使節交換ニ要スル經費計上セララルルヤ國內ニ猛烈ナル反對運動アリ終ニ衆議院ニ於テ削除セラレタリ其ノ後羅馬法王廳ヨリ使節トシテ大僧正ノ派遣アリ如何ナル待遇ヲ以テ政府ハ之ヲ迎ヘ居ラルルヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月二十三日野中徹也君提出ス同月二十六日平生文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一 輓近一部國民生活ニ不安ノ念アルニ乘ジテ邪教流行ノ傾向アルハ遺憾トスル所ナリ現在ニ於テハ類似宗教ニ關シテ特別ナル法規ナク一般的ニ警察上ノ取締ヲ爲スノミ之ニ對スル法規ハ將來宗教團體法ノ制定ノ際之ヲ考慮セントス
- 二 各宗派管長ノ選舉及職務執行ニ付テハ常ニ適當ノ監督ヲ加ヘツツアルモ將來ニ於テハ之ヲ一層嚴ニスベシ
- 三 法人タル寺院ノ收入ト任職個人ノ收入トハ之ヲ區別スル様指導シ居ルモ將來宗教法規ノ完備ニ依リテ一層之ガ區分ヲ明瞭ナラシメントス

- 四 宗教團體法ハ目下其ノ要綱ヲ宗教制度調査會ニ諮詢中ナリ之ガ答申ヲ俟ツテ可及的速ニ議會ニ提出セントス
- 五 政府ハ羅馬法王廳使節ニ對シテ外交官トシテノ特別ノ待遇ヲ成シ居ラズ右及答辯候也

一五 陸軍軍紀ニ關スル質問

- 一 寺内陸軍大臣ノ肅軍ノ決意ニ對シテハ素ヨリ滿腔ノ敬意ヲ表スル次第デアルダガ一般ニハ陸軍大臣ノ肅軍目標ガ二二六事件ノ直接的動機即チ現役軍人ノ無統制ナル政治的意見ノ發表、部内派閥ノ私闘ニノミ置カレテキルガ如ク見ラレテキル併シ肅正ヲ要スルモノハ過去ニ溯ツテ見ルモ必ズシモ斯ル事バカリデハナイ遠クハ「シーメンス」事件、近クハ某事件ノ如ク頻々トシテ瀆職事件ガ起ツテ來テキル現政府ハ國民ノ犯罪ニ對シテハ既ニ刑罰ヲ終ツタ者ニ對シテスラ思想犯保護觀察法ノ發動ニ依ツテ更ニ苛酷ナ取締ヲセントシテキルシ又肅軍ノ實ヲ擧グル爲ニ國民ノ政治的自由ヲ束縛迄モシテ不穩文書等取締法ヤ總動員祕密保護法ヲスラ制定セントシテキル併シ今回ノ某事件ノ如キ軍人ニ限ラズ官公吏ガ地位ヲ濫用シ職權ヲ冒瀆シテ瀆職問題ノ如キ忌シキ事件ヲ惹起シテキルノニ對シテ如何ナル具體的ナ取締方法ヲ取リツツアルヤ

ルヤ

一 陸軍大臣ハ時局ノ重大性ニ鑑ミ軍備ノ充實、兵器裝備ノ改善擴大ヲ強調シ巨大ナ軍事豫算ヲ要求シツツアルガ最近數年ノ陸軍豫算ノ増加趨勢ヲ見ルト

昭和	經常費	臨時費	計	指數
六	一六三	六三	二二六	一〇〇
七	一四八	一一五	二六三	一六五
八	一六六	二九六	四六二	二〇四
九	一六九	二八四	四五三	二〇〇
一〇	一七九	三一四	四九三	二一八

斯ノ如ク滿洲事變勃發ノ年ニ比シテ二倍以上ヲ急増シテキル之ハ決シテ國民生活ノ潤澤ナル所カラ捻出サレタモノデハナクテ之迄ハ赤字公債ノ増發ニ依ツタモノデアリ其レハ一部ハ既ニ國民大衆ノ上ニ轉嫁サレ一部ハヤガテ轉嫁セラレネバナラナイ性質ノモノデアアル陸軍當局ハ特ニ廣義國防ノ爲ニ國民生活ノ安定ヲ強調シテキル而モ國民生活ハ目下極度ノ不安ニ脅サレテキル現状デアアルカラ此ノ軍事費ハ文字通り國民ノ血ト汗ノ結晶デアアル意味ニ於テ毫末ト雖不當ニ費消セラレテハナラナイモノデアアル若シ此ノ巨大ナ軍事費ガ最モ正當ニ消費セラレ

ルモノトシタナラバ其レハ一部軍需資本家ヲ潤スニ止マラズ労働者ニモ農民ニモ下級俸給生活者ニモ將又中小商工業者ニモ利益ヲ與ヘルヤウニ消費セラレネバナライコトハ云フヲ俟タナイダガ陸軍省ニ於テ年額二十萬圓以上ノ注文ヲ發シ其レガ當該會社總生産額ノ一割以上ヲ占ムル三十八會社ノ配當金及ビ配當率ヲ示セバ

昭和	配當金 千圓	指 數	配當率
六	三、二四三	一〇〇	—
七	四、二四〇	一三一	〇・三五
八	七、〇三六	二一七	〇・五一
九	七、四一八	二二二	〇・五四

九年度ハ上半期ダケデアアルカラ全年トスレバ金額ニシテ此ノ倍額ト見テヨイダカラ繰越決損ガ六年度ニハ三二、五〇四、〇〇〇圓、七年度ニハ二、三六七、〇〇〇圓アツタノガ八年度ニハ三、二二三、〇〇〇圓、九年度ニハ三、九七六、〇〇〇圓ト利益繰越ヲ見セテキル有様デ軍需資本家ノ利益タルヤ莫大デアアル同様ナ事ガ海軍指定工場ノ場合ニ於テモ云ヒ得ルコトハ勿論デアアル然ルニ斯ル工場ニ働ク労働者ノ状態ハドウデアアルカ海軍工廠職工、臨時工ノ賃銀ヲ見ヤウ

昭和	職工平均	臨時工平均
七	一九五五	—
八	一九三三	—
九	一八六四	一三三七
十	一八〇五	一三〇四
十一	一七九七	一三二二

右ノ如ク逆ニ賃銀ガ低下シテキル此ノ事ハ獨リ工廠ノミナラズ一般賃銀指數ニ依ツテモ明カデアアル農民ノ状態ニ就テハ今更喋々スル迄モナク其ノ生活窮乏ハ周知ノ事實デアリ「サラリマン」、中小商工業者モ同様デアアル其ノ上ニ公債増發ニ依ツテ必然的ニ「インフレ」的傾向ヲ辿リ物價騰貴ニ依ツテ一層此等ノ國民層ヲ塗炭ノ苦ミノ中ニ投ジツツアル斯ノ如キ事實ニ對シテ陸軍大臣ノ云フ國民生活ノ安定ノ具體的方策トハ如何ナル事ヲ意味スルヤ

一 軍事費ノ膨脹ガ斯クノ如ク一部軍需資本家ヲ潤スニ止ツテキルトシタナラ必然的ニ軍需品注文ニ絡ル多クノ醜聞ヲ生ム原因ヲ爲スモノデアアル之ヲ各國ノ例ニトルモ大戰前ノ「ドイツ」「イギリス」政府、「ブチロフ」工場ト「ロシア」政府トノ關係ノ如ク擧グルニ違ナキ程デアアル我が國ニ於テモ「シーメンス」事件ニ於テ其ノ例ヲ經驗シテ來テキル斯クノ如ク軍需資本家ヘノ利益ノ偏重ノ存スル限り利益利潤追及ヲ目的トスル資本家ト責任的地位ニ在ル官公

吏乃至軍人トノ間ニ瀆職事件ヲ起シ勝デアルト思フガ如何

- 一 之迄ノ歴史ニ徴スレバ瀆職事件ハ必ズシモ一國の規模ニ止ラナイコトガ間々アル例ヘバ戰前「ブチロフ」事件ニ於ケル「ツアハロフ」ト「ロシヤ」陸相「スホムリ」ノ瀆職、大戦中ニ於ケル「ドイツ」製鐵「トラスト」ノ「フランス」ヘノ賣込事件、「ツアハロフ」ト「イギリス」軍需大臣「ロイドジョージ」ノ事件又我が國ニ於テモ「ヴィツカース」ヲ中心トスル「シーメンズ」事件ガアル之ハ軍需工業ガ鎖國的デアルト同時ニ國際的デアルトコトノ反面カラ結果シタモノデアアル之ヲ投資關係ニ於テ外國ノ例ニ見ルナラバ佛ノ「シユナイダー」ハ「チエツコ、スロバアキア」ノ「スコダ」ニ投資シ「ツアハロフ」ノ如キハ「ヴィツカース」、「マキシム」、「スコダ」ノ各國軍需工業ノ投資家デアッタ我が國ニ於テモ芝浦製作所其ノ他ノ軍需工場ニ英、米、獨ノ資本ノ投ゼラレテキルコトハ餘ニモ有名デアルト特ニ三井、三菱、住友、大倉等々ノ財閥ガ特許權其ノ他ヲ通ジテ外國資本ト結附イテキルコトハ隠レモナイ事實デアアル此ニ瀆職ガ國際的トナリ軍機ハ往々ニシテ此等國際的ナ諸會社間ニ交換サレルコトスラアルノデアアル米國上院ノ「ナイ」委員會ニ於テ日米間ノ斯ル問題ガ提起サレテキルニ鑑ミテモ單ナル總動員秘密保護法ヲ制定スルニ先チ其ノ根因ヲ一掃スルコトナクンバ何ノ要モ爲サナイト思フガ如何

- 一 軍需工業資本ニ前述ノ如キ巨額ノ利益ヲ收メシメテキル結果軍需工場ノ裝備ハ日々ニ老大

トナリ戰爭ナクシテハ存立シ得ナクナル國際的武器販賣人「ツアハロフ」ノ行ク處必ズ戰爭アリト言ハレテキタガ彼ハ武器賣込ミノ爲ニハ必要以上ニ戰爭熱ヲ煽ツテ歩イタ我が國ニ於テモ武器ヲ國際的ニ輸出スル泰平組合ナルモノガ三井、三菱、大倉ニ依ツテ作ラレテキルガ固ヨリ其レハ拂下武器ヲ大倉系ノ南部銃製作所デ修繕スル程度ノモノデアアルガ斯ノ如キ問題ガ起ラヌトモ限ラナイ又斯ノ如キ事ノ爲ニ瀆職問題ハ起リ勝デアアル從テ斯ノ如キ瀆職ノ原因ヲ撤去スル意思アリヤ

- 一 以上ノ質問ヲ要約スレバ肅軍トハ陸軍部内ニ於ケル一般風紀ガ軍需費ノ膨脹及此ノ爲ニ生ズル軍需資本家ト責任者トノ接近ニ大ナル關係アルコト明デアアルニ鑑ミ瀆職其ノ他ノ軍紀ヲ肅正セントスルナラバ此ノ根因ヲ撤去シナケレバナラナイト思フガ如何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十一年五月二十三日加藤勘十君提出ス同月二十六日寺内陸軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

質問趣意書ノ内容ニ於テ恰モ軍事費ノ増加カ瀆職等ノ軍紀弛緩ノ原因ナルカ如ク或ハ軍事費ノ運用ニ不當ノ消費アルカノ如キ口吻ノ認メラルルハ洵ニ遺憾ナリ如斯ハ斷シテ軍ノ承服スルモノニ非ス
軍ハ軍紀ノ肅正ニ關シテハ自ラ信スル所ニ從テ上下一致全幅ノ努力ヲ以テ其ノ完成ヲ期シアリ
右及答辯候也

緊急質問

一 米國及濠洲ニ對シ貿易擁護法適用ニ關スル緊急質問

右ハ昭和十一年五月二十四日加藤録五郎君提出ス即日議事日程ヲ變更シテ左ノ質問ヲ爲ス

私ハ此場合極メテ簡單ニ米國及ビ濠洲ニ起レル關稅ノ問題ニ付キマシテ、政府ニ其真相ヲ質シ、政府ノ所見ヲ求メ、其決心ヲ伺ハント欲スル者デゴザイマス、昨日及ビ本日新聞紙ノ報道スル所ニ依リマスレバ、米國及ビ濠洲ニ於キマシテハ、我國ノ綿布其他ノ雜貨ニ對シテ、非常ナル高率ノ關稅ヲ賦課シ、有ユル手段ヲ以テ我が輸入品ノ禁止、防遏ノ態度ニ出テ居ルノデゴザイマシテ、而モ其手段ハ拔打的、非紳士的、挑戰的態度デアアルノデゴザイマス、先ヅ以テ私ハ政府ニ其真相ノ御説明ヲ願ヒタイト思フ者デゴザイマス、米國ニ於キマシテハ、一昨日「ルーズベルト」ガ有シテ居リマスル伸縮關稅ノ條項ニ依リマシテ、我が綿布ニ對シテ實ニ四割二分ノ關稅ノ引上ヲ爲シタノデゴザイマス、而シテ若シ此ノ關稅ノ引上ニ依ッテ、我が綿布ノ輸入ガ尙ホ續クナラバ、更ニ割當制ヲ實行セント云フコトガ新聞ニ出テ居ルノデゴザイマス、私ハ此場合日米ノ貿易ノ數字ナドハ一切省略致シマスルガ、米國ノ棉花ハ我國ニ於テ昨年ハ實ニ三億七千萬圓ノ巨額ヲ買入レテ居ルノデアリマシテ、問題ニナル綿布ガ米國ニ參リマスノハ、此棉花ヲ購入シ、之ヲ加工致シマシテ、額ニ致シマシテ昨年ハ約八百十萬圓程度ノモノヲ米國ニ輸出シ、米國ガ之ヲ買ッタノデゴザイマス、若シ夫レ米國ノ棉花ヲ買入レタルニ比較致シマスレバ、數字ニ於テハ殆ト五十分

ノ一デアアルノデアリマス、私ハ先日ノ議會ニ於テ此處デ申シタコトデアリマスルガ故ニ、繰返ス必要ハゴザイマセヌガ、米國ニ於ケル一箇年ノ綿布ノ消費額ト云フモノハ、實ニ七十億平方碼デゴザイマシテ、日本カラ入ッテ行クノハ其二分の一ニ過ギナイノデアリマス、其二分の一ニ過ギナイ少額ノモノヲ以テ、米國ノ綿布ノ生産業者ガ脅威ヲ受クルナドト云フコトハ、是ハ一片ノ辭柄ニ外ナラヌノデアリマシテ、洵ニ米國ノ此ノ關稅ノ引上ト云フモノハ、非紳士的態度デアアルト思フノデゴザイマス、之ニ對シマシテ私ハ政府ガ如何ナル所見ヲ有シ、如何ナル決心ヲ持ッテ居ラル、カラ伺ヒタイト思ヒマス、次ニ濠洲ノ問題デゴザイマス、是ハ實ニ奇怪千萬ナル態度デアアルト私ハ言ハナケレバナラヌノデアアル、我國ト致シマシテハ濠洲ニ拂フ額ガ、昨年ハ一億六七千萬圓モ多ク拂ッテ、所謂輸入超過ノ状態ヲ示シテ居ルノデアリマス、然ルニ我國ハ濠洲ノ羊毛ヲ、昨年ハ實ニ一億九千萬圓ノ多額ヲ買ッテ居リマシテ、濠洲ノ唯一ノ得意デアアルノデゴザイマス、然ルニ一昨日濠洲政府ハ、我國ガ紳士的態度ヲ以テ新ナル協約ヲ結ブベク、折衝致シテ居リマス、新聞紙ノ報ズル所ニ依リマスレバ、突如電話ヲ以テ此中止打切ヲ申シ、我が人絹ニ對シマシテ十割乃至四十割ノ引上ヲ致シタノデアアル、而シテ昨日ヨリ是ガ實施サレテ、效力ヲ發揮致シテ居ルノデアアル、綿布ニ對シマシテハ、新聞紙ノ報ズル所ニ依レバ、約四割ヨリ十二割方ノ引上ヲ爲シ、平均致シマスレバ二十五六割ノ引上ヲ爲シテ居ルノデアアル、加フルニ八十六品目ニ互リマシテ輸入許可制度ヲ採ッテ、我が雜貨ノ行クノヲ、之ヲ以テ喰止メント致シテ居リマシテ、之ニ依ッテ絕對ニ本邦品ノ輸入ヲ禁止セント致シテ居ルノデゴザイマス、然ルニ一面奇怪ナルコトハ、我國ト濠洲ニ於テ競争品デアリマスル所ノ英國ノ綿布ナドニ對シテハ、却テ關稅ノ引下ヲ爲シ、雜貨ニ對シテハ、此八十六品目ノ適用ヲ除外シテ居ルト云フ有様デアリマシテ、片手落ノ態度ハ實ニ奇怪千萬ト言ハナケレバナラヌノデアアル、此濠洲ガ如何ニ露骨デアアルカト申シマスルコトハ、一昨日ノ議會ニ於テ、濠洲ノ政府ハ、今回ノ關稅ノ改正、輸入許可制ヲ採ッタノハ、英國ノ爲ニ儲ケサス爲デアアル、思フニ英國ハ之ニ依ッテ年二百萬磅位ノ輸出ガ多クナルデアラウト云フコトヲ、公然議會ニ於テ演說ヲ致シテ居ルノデアリマス、本日ノ新聞ニ依リ

マスレバ、英國ノ「ランカシヤ」ノ當業者ハ、今回ノ濠洲ノ關稅ノ改正其他ノ措置ニ依ツテ、英國ハ少クトモ一年三百萬磅ノ濠洲ニ輸入増加ヲ爲シ得ルモノデアルト申シテ居ルノデアリマス、洵ニ奇怪千萬、我國ニ對シテ眞ニ挑戰的態度ヲ執ツテ居ルト謂ハナケレバナラヌノデアリマス、若シ此儘ニ我が外務當局ガ屈服スルガ如キコトアリマシタラバ、近ク會商致サントシツ、アル日埃ノ問題、近ク又會議ガ開カレントスル日印ノ問題ノ前途知ルベキデアルト私ハ思フノデアリマス、仍テ政府ハ是等ノ不遜無禮ナル態度ニ對シテ、如何ナル態度ヲ執ラレントスルノデアリマスカ、私ハ先日モ申シタコトデアリマス、最早區々ノ術策ハ止メテ、堂々トシテ力ヲ以テ擁護法ヲ發動スベシト信ズルモノデアリマス、政府ノ所信ヲ私ハ伺ヒタイト思ヒマス、以上極メテ簡單デゴザイマスガ、濠洲、米國ノ此關稅ノ問題ニ付テ政府ノ所見ヲ求メ、其決心ヲ私ハ伺ヒ、以テ政府ノ所信ヲ中外ニ發表サレントラ望ム次第デゴザイマス

有田外務大臣ハ左ノ答辯ヲ爲ス

日濠間及ビ日米間ノ日本綿布制限問題ニ付キマシテハ、本月十四日本院ニ於キマシテ加藤君カラ御質問ガアリマシタノデ、一應ノ答辯ヲ致シテ置イタノデアリマスガ、其後、日濠問題ハ急轉致シマシテ、濠洲政府ハ同國議會ノ閉會間際、突如二十二日ニ至リマシテ、關稅改正案ヲ提出致シマシテ、綿布、人絹布等ニ對シテ重稅ヲ課スルコトトナリマシテ、我が對濠貿易上、穩カナラザル事態ヲ發生シタコトハ洵ニ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマス、御承知ノ通り帝國政府ハ日濠間ノ通商關係ヲ、安定ナル基礎ノ上ニ置カント致シマシテ、客年二月以來、濠洲ニ於キマシテ日濠通商條約締結ノ交渉ニ當ツテ居タノデアリマスガ、交渉モ大體順調ニ運ビ、本年ノ初メニ於キマシテハ妥結ヲ見ルト云フ程度マデ、進展シテ參ツタノデアリマス、然ルニ本年二月濠洲政府ハ、突然我が對濠重要輸出品デアアル綿布及ビ人絹布ノ數量制限ヲ提議シ來ツタノデアリマス、帝國政府ト致シマシテハ此突然ノ申出ニ對シテモ、日濠通商關係ノ大局ヨリ、濠洲側ノ不滿ノ重要

ナル點ト認メラレマス、本邦人絹布ノ急激ナル値下リヲ防止スル爲ニ、輸出統制手數料ヲ徵シテ人絹布ノ價格ヲ引上ゲマシタ、尙ホ濠洲側ノ要望ニ副ハンガ爲ニ見越シ輸出阻止ノ目的ヲ以テマシテ、期近物ノ新規註文ヲ取ラザルコト、及既約品以外ノ物ハ之ヲ積出サル等、出來得ル限リノ協力ヲ示シタノデアリマス、濠洲政府ハ我方ノ協力ニモ拘ラズ、今次ノ措置ニ出デタノデアリマシテ、洵ニ遺憾至極ニ存ズル次第デアリマス、事茲ニ至リマシタル以上ハ、帝國政府ト致シマシテハ我が貿易擁護ノ見地ヨリ致シマシテ、至急適當機關ニ付議致シマシタル上ニ、通商擁護法ノ發動、其他適當ノ措置ヲ講ジナケレバナラナイト存ジテ居ルノデアリマス、日本ガ此際如何ナル措置ヲ執ルニ至リマシテモ、是ハ決シテ豫テ日本ノ唱導致シテ來マシタ貿易自由ノ方針ニ何等ノ變更ヲ見ル次第デハナイノデアリマス、即チ日本ノ執ルコトアルベキ措置ハ、我が貿易ヲ擁護スルト同時ニ、世界不況克服ノ障礙ヲナシマス、貿易障礙ノ撤去ヲ促サントスル已ムヲ得ザル措置ナノデアリマス、私ハ濠洲政府ガ世界不況克服ト云フ大局ノ見地ニ立チ、殊ニ同國ガ我國ニ對シテ比較ニナラヌ程大量ノ賣込ミヲナシテ居リマス、現實ノ利害ニ鑑ミマシテ、一日モ速ニ其不當ノ引上ヲ中止スルコトヲ希望シテ已マナイノデアリマス、次ニ米國ノ日本綿布制限問題ニ付キマシテハ、帝國政府ト致シマシテハ日米通商關係ノ大局ヨリ、本邦當業者ヲシテ對米輸出綿布ノ自制方ヲ從導致シマシタ、是亦大體意見ノ一致ヲ見タノデアリマス、自制ニ關シマシテ、米國側ノ協力ヲ得ルコトガ出來ナカッタ爲ニ、話合ヒ全部ガ不調ニ終リマシテ、遂ニ今次ノ綿布關稅引上ヲ見ルニ至ツタノデアリマス、日米貿易ノ現狀ニ鑑ミマシテ是亦甚ダ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマス、此問題ニ付キマシテモ、政府ニ於キマシテハ、篤ト考究善處致シタイト存ジテ居ル次第デアリマス

第四章 議長、副議長候補者、全院委員長、常任委員、特別委員 及兩院協議委員ノ選舉

昭和十一年五月一日衆議院書記官長田口弼一君ハ議院法第三條第二項ニ依リ議長席ニ著キ衆議院規則第三條ニ依リ議長及副議長候補者選舉ヲ行フ而シテ議長候補者選舉ノ結果(投票總數四百十三)富田幸次郎君(三百七十一點)、増田義一君(二百九十五點)、小西和君(二百五十八點)當選シ引續キ副議長候補者選舉ヲ行ヒ(投票總數四百四)岡田忠彦君(三百六十四點)、出井兵吉君(二百五十四點)、中井一夫君(二百三十五點)當選セリ依テ書記官長ハ即日内閣總理大臣ヲ經由シテ候補者ヲ奏上シタルニ同日富田幸次郎君ハ衆議院議長ニ、岡田忠彦君ハ衆議院副議長ニ勅任セラレタリ翌二日書記官長ハ議長富田幸次郎君ヲ議院ニ紹介ス議長ハ左ノ就職ノ辭ヲ述ベタル後議長席ニ著ク

私ハ諸君ノ御推薦ニ依リマシテ、衆議院議長ニ勅任セラレマシタルハ洵ニ光榮ノ至リデアリマス、私ハ微力短才デアリマシテ、果シテ議長トシテノ重任ヲ十分ニ竭シ得ルヤ否ヤヲ危ムノデアリマスガ、何卒諸君ノ御鞭撻ト御支援トニ依リマシテ、大過ナキヲ期シタイト思ヒマスル、國政トハ、今更申上グル迄モナイ所デアリマスガ、内外時局ノ重大ハ一層此感ヲ深ク致スノデアリマス、議員各位ニ於カセラレテハ、此際自肅自強益々衆議院本然ノ機能ヲ發揮セラレテ、國家難局ノ解決ニ渾身ノ協力ヲ致サナケレバナラナイト思フノデアリマス、私ハ諸君ト共ニ同心戮力、議

會ノ信用ノ向上ニ努力致シ、益々憲法政治ノ發達ニ貢獻致シタイト思フノデアリマス、茲ニ謹ンデ就任ノ御挨拶ヲ申上グル次第デアリマス

次テ書記官長ハ副議長岡田忠彦君ヲ議院ニ紹介ス副議長ハ左ノ就職ノ辭ヲ述フ

諸君、私ハ昨日本院副議長ニ拜命セラル、ノ光榮ニ浴シマシタ、是レ偏ニ諸君ノ御推薦ノ賜デアリマシテ、深ク感謝ノ意ヲ表シマス、然ル上ハ誠心以テ本分ニ循ヒ、御厚意ニ酬ウルノ覺悟デアリマスガ、定メテ不行屆勝チノコトト存ジマス、何卒將來一層ノ御同情ト御後援ノ程ヲ、謹ンデ御願申ス次第デゴザイマス

年長議員本多貞次郎君ハ議員總代トシテ議長及副議長ニ對シ左ノ祝辭ヲ述フ

諸君、私ハ年長者ノ故ヲ以チマシテ、議員一同ヲ代表シ、正副議長御任命ニ付キマシテ、一言祝辭ヲ申述ベマス、昨日本院ノ大多數ヲ以テ選舉セラレマシタル議長候補者富田幸次郎君ハ議長ニ、副議長候補者岡田忠彦君ハ副議長ニ、各、勅任セラレタルコトハ洵ニ吾々ノ満足スル所デアリマス、兩君ハ執レモ多年憲政ノ爲ニ盡瘁セラレ、老練達識ノ御方デアリマス、其職責ヲ全ウシ、憲政ノ發達ニ貢獻スル所多カルベキハ信ジテ疑ハザル所デアリマス、茲ニ謹ンデ議員一同ヲ代表シ祝辭ヲ申述ベマス

同月五日全院委員長ノ選舉ヲ行ヒ熊谷五右衛門君ハ二百七十四票ノ得點(投票總數三百三十九)ヲ以テ當選セリ

常任委員(豫算、決算、請願及懲罰)各委員竝建議案審査ノ爲四十五人ノ常任委員ヲ設ク(第二章第

四節第七項參看)ノ選舉ハ全院委員長選舉ノ後本會議休憩中各部ニ於テ之ヲ行ヒ再開後其ノ結果ヲ報告シ散會後各委員長及理事ノ互選ヲ行ヘリ而シテ豫算委員會ハ五月十一日六分科ヲ、決算委員會ハ五月二十日、請願委員會ハ五月六日、建議委員會ハ五月八日執レモ二分科ヲ設定シテ各委員ノ所屬ヲ定メタリ其ノ員數左ノ如シ但シ委員長ハ分科ニ屬セス

豫算委員

第一分科 (外務省、司法省及拓務省所管)

(所屬員 十一名)

第二分科 (内務省及文部省所管)

(所屬員 十一名)

第三分科 (大藏省所管)

(所屬員 十一名)

第四分科 (陸軍省及海軍省所管)

(所屬員 十四名)

第五分科 (農林省及商工省所管)

(所屬員 十九名)

第六分科 (遞信省及鐵道省所管)

(所屬員 八名)

決算委員

第一分科 (大藏省、陸軍省、海軍省、農林省及商工省所管)

(所屬員 二十二名)

第二分科 (外務省、内務省、司法省、文部省、遞信省、鐵道省及拓務省所管)

(所屬員 二十二名)

請願委員

第一分科 (内閣、外務省、内務省、大藏省、農林省、商工省所管及第二分科ニ屬セサル事項)

(所屬員 二十二名)

第二分科 (陸軍省、海軍省、司法省、文部省、遞信省、鐵道省及拓務省所管)

(所屬員 十九名)

建議委員

第一分科 (内閣、陸軍省、海軍省、司法省、遞信省、鐵道省及拓務省所管)

(所屬員 二十二名)

第二分科 (内務省、外務省、大藏省、農林省、商工省及文部省所管)

(所屬員 二十二名)

特別委員ノ設定十七ニシテ執レモ院議ニ依リ議長指名ヲ以テ之ヲ選定セリ而シテ其ノ委員數三十六名ノモノ一、二十七名ノモノ七、十八名ノモノ八、九名ノモノ一トス

兩院協議委員(委員數)ヲ設定シタルコト一ニシテ院議ニ依リ議長之ヲ指名セリ

委員中辭任シタルモノ常任委員ニ在リテハ二十名、特別委員ニ在リテハ百九名ニシテ其ノ補闕ハ常任委員ニ於テハ其ノ選出部ニ於テ之ヲ選舉シ特別委員ニ於テハ議長指名ニ依リ之ヲ選定セリ
院委員會ハ之ヲ開キタルコトナク常任委員會ノ開會數ハ豫算委員會二十四回、決算委員會十一回、

請願委員會十二回、懲罰委員會一回、建議委員會九回(懲罰委員會ヲ除キ其ノ他ハ孰レモ分科會ヲ含ム)ニシテ特別委員會ノ開會數八十八回、兩院協議會ハ二回トス此ノ外部會ヲ開キタルコト三十五回ニ及ヘリ

附

錄

第六十九回(特別)
帝國議會

衆議院議事摘要 附錄

第一議員

本期議會ニ於ケル議員ノ氏名、議席、部屬、選舉區及所屬黨派ヲ表記スレハ左ノ如シ

議員氏名 (いろは順)

[會期終了當日現在]

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
(い、ぬ)									
四二五	九	東京	五民	伊藤武七郎君	一七九	六	千葉	二政	今井健彦君
三七二	一	京都	二民	池本甚四郎君	八〇	七	千葉	三政	岩瀬亮君
八	六	大阪	三第二	池崎忠孝君	二六二	九	千葉	三民	池田清秋君
二〇三	九	大阪	五政	岩崎幸治郎君	四六六	一	茨城	二昭	石井三郎君
三六〇	四	大阪	六昭	井阪豐光君	四四八	八	茨城	三昭	飯村五郎君
二三九	六	神奈川	一民	飯田助夫君	九〇	八	奈良	政	岩本武助君
六〇	五	埼玉	二政	石坂養平君	六	五	山梨	第二	今井新造君
一一五	九	埼玉	三政	出井兵吉君	一四三	三	岐阜	二民	伊藤東一郎君
三三四	八	群馬	一民	飯塚春太郎君	一二二	五	福井	政	猪野毛利榮君
					九一	六	富山	一政	石坂豐一君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一七〇	二	岡山二	政	犬養健君
一八〇	一	德島一	政	生田和平君
一三六	五	福岡二	政	石井德久次君
三〇七	一	大分一	民	一宮房治郎君
三四三	七	佐賀一	民	池田秀雄君
三三三	七	熊本一	國	石坂繁君
三六	七	熊本二	國	伊豆富人君
四一	二	宮崎	政	伊東岩男君
一七二	七	鹿兒島一	政	井上知治君
三三八	五	鹿兒島一	昭	今給黎誠吾君
一四六	九	鹿兒島二	政	岩元榮次郎君
三五	八	沖繩	國	伊禮肇君
四〇九	五	北海道一	民	一柳仲次郎君
二五九	七	東京一	民	原玉重君
三四九	六	東京一	民	橋本祐幸君
一九九	九	東京二	政	鳩山一郎君
三八九	七	兵庫一	民	濱野徹太郎君
一八五	九	兵庫二	民	原淳一郎君
四	二	長崎一	第二	馬場元治君
四〇	一	群馬二	政	畑桃作君
二四八	五	奈良	民	服部教一君
四四	七	三重一	政	服部米次郎君
二〇〇	二	三重二	政	濱田國松君
三四二	二	愛知一	民	服部崎市君
一六五	八	愛知二	民	服部英明君
四四〇	二	靜岡二	昭	春名成章君
六一	一	滋賀	政	服部岩吉君
二二二	四	福島二	政	八田宗吉君
三八五	五	福島二	民	林平馬君
二二六	四	石川一	政	箸本太吉君
四〇三	三	島根一	民	原夫次郎君
一二七	八	岡山二	政	星島二郎君
三七四	九	愛媛四	民	本多眞喜雄君
三三五	二	神奈川一	民	戸井嘉作君
三三五	六	長崎二	民	富田等平君
三六三	六	茨城一	民	豊田豊吉君
三四五	九	鳥取	昭	豊田收君
四一五	七	香川一	民	戸澤民十郎君
二九	議	長高知一	無	富田幸次郎君
一三五	五	福岡一	政	藤勝榮君
一〇〇	七	鹿兒島二	政	東郷實君
四四二	七	鹿兒島二	第一	富吉榮二君
一四五	四	北海道三	政	登坂良作君
五六	九	北海道五	政	東條貞君
四三五	四	宮崎	昭	陣軍吉君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一一八	二	高知二	政	林讓治君
二二〇	五	沖繩	政	花城永渡君
三三七	三	北海道二	昭	林路一君
四二〇	三	北海道二	民	坂東幸太郎君
一七六	七	京都一	民	西村金三郎君
一九二	七	長崎一	政	西岡竹次郎君
一八一	五	山形一	政	西方利馬君
三一六	四	岡山二	民	西村丹治郎君
二	八	山口一	第二	西川貞一君
二一九	七	山口二	政	西村茂生君
二二二	五	和歌山一	民	西田郁平君
二四五	四	長崎一	民	本田英作君
二二七	九	千葉一	政	本多貞次郎君
三九二	三	山梨	民	堀内良平君
一〇二	九	福島一	政	堀切善兵衛君
一二七	八	岡山二	政	星島二郎君
三七四	九	愛媛四	民	本多眞喜雄君
三三五	二	神奈川一	民	戸井嘉作君
三三五	六	長崎二	民	富田等平君
三六三	六	茨城一	民	豊田豊吉君
三四五	九	鳥取	昭	豊田收君
四一五	七	香川一	民	戸澤民十郎君
二九	議	長高知一	無	富田幸次郎君
一三五	五	福岡一	政	藤勝榮君
一〇〇	七	鹿兒島二	政	東郷實君
四四二	七	鹿兒島二	第一	富吉榮二君
一四五	四	北海道三	政	登坂良作君
五六	九	北海道五	政	東條貞君
四三五	四	宮崎	昭	陣軍吉君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二九五	六	東京	四民	太田信治郎君
四三七	三	神奈川	一第一	岡崎憲君
四一九	二	神奈川	三民	岡崎久次郎君
八三	二	新潟	三國	大竹貫一君
六四	三	千葉	三政	小高長三郎君
二四三	七	栃木	一民	大門恒作君
二七七	九	栃木	一民	岡田喜久治君
一三	八	三重	二第二	尾崎行雄君
四〇五	六	愛知	四民	岡本實太郎君
一八八	八	愛知	五政	大口喜六君
一九七	六	靜岡	一民	小久江美代吉君
九七	八	靜岡	三政	太田正孝君
八一	六	岐阜	一政	大野伴睦君
二六〇	三	宮城	二民	小山倉之助君
八二	六	宮城	二政	大石倫治君
五〇	二	青森	一政	小笠原八十美君

二五二

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二九〇	九	山形	二民	奥山龜藏君
六三	九	秋田	二政	小山田義孝君
三〇	長副議	岡山	一無	岡田忠彦君
三二一	一	岡山	二民	小川郷太郎君
一六四	九	愛媛	一政	大本貞太郎君
四二一	二	愛媛	二民	小野寅吉君
一五	七	高知	一第二	大石大君
三六四	九	高知	二民	尾崎重美君
七	五	福岡	三第二	岡幸三郎君
一三八	七	福岡	三政	沖藏君
一四一	一	大分	一政	小野廉君
三二七	四	熊本	一民	大野唯男君
二二五	五	北海道	一政	岡田伊太郎君
三六九	九	北海道	三民	大島寅吉君
二六三	四	北海道	四民	岡田春夫君
一四四	九	北海道	五政	尾崎天風君
二二〇	四	千葉	一政	川島正次郎君
三七	四	茨城	三國	風見章君
二〇四	六	三重	一政	加藤久米四郎君
二七四	九	三重	一民	片岡恒一君
三二四	六	三重	一民	川崎克君
二二八	九	愛知	一政	加藤鏝五郎君
三一〇	五	愛知	三民	加藤鯛一君
一五三	二	靜岡	二政	勝又春一君
二六	三	山梨	二第二	笠井重治君
四六	七	岐阜	二政	加藤賢司君
四三	五	長野	二政	春日俊文君
一九六	八	福島	一政	菅野善右衛門君
四四一	四	青森	二昭	兼田秀雄君
四三八	三	秋田	二第一	川俣清音君
三四七	四	岡山	一民	片山一男君
一八九	二	愛媛	二政	河上哲太君
四五四	五	福岡	二第一	龜井貫一郎君

二五三

附錄 第一 議員

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三二九	八	福岡	四民	勝正 憲君
一六三	一	福岡	四政	片山秀太郎君
一七八	五	大分	一政	金光庸夫君
三五二	八	鹿兒島	三昭	金井正夫君
三九六	四	沖繩	民	漢那憲和君
(よ)				
二九八	七	大阪	四民	吉川吉郎兵衛君
一四八	三	埼玉	二政	横川重次君
一四七	四	千葉	二政	吉植庄亮君
三〇〇	三	廣島	三民	横山金太郎君
(た)				
一一三	四	東京	一政	立川太郎君
三三〇	四	東京	三民	頼母木桂吉君
一一二	九	東京	三第二	田川大吉郎君
三九	一	東京	六政	田中源君
一六一	五	京都	二政	田中好君
(ろ)				
一五〇	八	静岡	二民	高木兼太郎君
二八九	六	愛知	四民	武富濟君
二八	八	愛知	三無	瀧正雄君
一二六	三	愛知	二政	丹下茂十郎君
四〇四	一	栃木	二民	高松長三君
三〇一	六	栃木	一民	高田耘平君
二三四	三	千葉	一民	多田滿長君
三九四	四	埼玉	二民	高橋守平君
一七四	一	埼玉	一政	高橋泰雄君
一一〇	二	新潟	四政	武田德三郎君
三四	三	新潟	二國	高岡大輔君
三二七	一	兵庫	四民	田中武雄君
七七	一	兵庫	二政	立川平君
一〇五	七	神奈川	三政	胎中楠右衛門君
四一六	六	大阪	五民	田中万逸君
四五二	五	大阪	一第一	田万清臣君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一一三	三	山梨	政	田邊七六君
二五	三	滋賀	第二	田中養達君
二五〇	三	長野	一民	田中邦治君
四七	五	長野	一政	田中彌助君
一一二	八	岩手	一政	田子一民君
二二七	六	山形	一政	高橋熊次郎君
三一八	九	島根	二民	俵孫一君
三四一	七	廣島	二民	田中貢君
五九	三	和歌山	一政	玉置吉之丞君
三三	五	和歌山	第二	田淵豐吉君
三四六	四	徳島	一民	田村秀吉君
二二三	五	徳島	二民	高島兵吉君
二八二	四	愛媛	一民	武知勇記君
七九	一	高知	一政	田村實君
二八一	六	福岡	二民	田島勝太郎君
三七七	一	福岡	二民	高野喜六君
八七	六	福岡	二政	田尻生五君
(な)				
一三七	二	福岡	三政	鶴惣市君
三五六	七	廣島	三民	土倉宗明君
一六七	二	富山	二政	土倉宗明君
一五八	八	秋田	二民	土田莊助君
二八〇	六	岩手	二民	鶴見祐輔君
二八八	二	滋賀	民	堤康次郎君
六九	七	栃木	一政	坪山徳彌君
二九〇	五	千葉	三民	土屋清三郎君
四三二	一	大阪	三第一	塚本重蔵君
三九一	九	京都	三民	津原武君
六七	二	東京	七政	津雲國利君
(こ)				
三三三	八	福井	民	添田敬一郎君
(ろ)				
一五四	六	宮崎	政	田尻藤四郎君
八六	五	佐賀	一政	田中亮一君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三三六	二	東京二	民	中島彌團次君	二五五	六	福島二	民	仲西三良君
二七一	五	東京二	民	長野高一君	一五七	一	秋田一	民	中川重春君
二五八	一	東京六	民	中村梅吉君	一五二	二	秋田一	政	中田儀直君
二五二	五	京都一	民	中村三之丞君	三一九	六	石川一	民	永井柳太郎君
二六七	三	大阪三	民	内藤正剛君	二二五	七	廣島一	政	名川侃市君
二七三	一	大阪四	民	中山福藏君	四二九	四	廣島三	昭	永山忠則君
二〇七	一	兵庫一	政	中井一夫君	一三四	九	山口二	政	中野治介君
一八六	三	兵庫一	民	中亥歳男君	二四	三	福岡一	第一	中野正剛君
二八七	三	長崎一	民	中村不二男君	三九七	九	佐賀一	民	中野邦一君
二四一	七	新潟三	民	内藤久一郎君	二五六	二	佐賀二	民	中村又一君
二〇一	五	群馬一	政	中島知久平君	二二九	五	熊本二	政	中野猛雄君
一四九	六	茨城一	民	中崎俊秀君	一一二	二	鹿児島一	政	中村嘉壽君
二六八	二	茨城二	民	中井川浩君	一三二	六	鹿児島三	政	永田良吉君
三四〇	二	三重二	民	長井源君	三五〇	七	沖繩	民	仲井間宗一君
二三七	六	静岡三	民	永田善三郎君	五八	四	北海道四	政	南條徳男君
一〇	八	長野三	第二	中原謹司君	二四四	四	北海道五	民	南雲正朔君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三九〇	七	京都三	民	村上上國吉君	三二六	三	神奈川二	民	野田武夫君
三九九	五	大阪二	民	紫安新九郎君	四二二	九	兵庫一	民	野田文一郎君
二六四	四	宮城二	民	村松久義君	六五	一	埼玉三	國	野中徹也君
三五七	二	山口一	民	村岡吾一君	三一五	一	富山一	民	野村嘉六君
四一三	七	愛媛二	民	村上紋四郎君	一一八	一	福岡三	政	野田俊作君
八九	四	大阪三	政	上田孝吉君	一四二	六	長崎一	政	倉成庄八郎君
二六五	九	兵庫五	民	植村嘉三郎君	一一四	五	静岡三	政	倉元要一君
三五四	五	群馬一	民	生方大吉君	一四	一	長野四	第二	畔田明君
三二四	四	千葉二	民	鶴澤宇八君	三一	六	青森一	民	工藤鐵男君
四四五	五	茨城一	昭	内田信也君	二〇五	七	青森二	政	工藤十三雄君
一〇六	一	長野四	政	植原悦二郎君	一一七	八	山形二	政	熊谷直太君
二九九	八	宮城一	民	内ヶ崎作三郎君	四六四	四	福井	昭	熊谷五右衛門君
四二七	八	福島三	民	内ヶ崎清君	一六八	九	岡山一	政	久山知之君
四二	四	熊本二	政	上塚司君	四四九	九	岡山一	第一	黒田壽男君
					二二三	三	山口一	政	久原房之助君
					三四四	二	山口二	昭	窪井義道君

四〇二	九長崎	二民	牧山耕藏君	三八四	一德島	二民	眞鍋勝君
四二四	八新潟	一民	松井郡治君	三六六	三愛媛	一民	松田喜三郎君
六八	三新潟	二政	松木弘君	四三六	一福岡	一第一	松本次一郎君
四一一	二新潟	四民	増田義一君	一	一福岡	一第一	前田幸作君
二七二	八埼玉	一民	松永東君	二七七	七熊本	一政	松野鶴平君
八八	九栃木	二政	松村光三君	二〇	八鹿児島	一第一	松方幸次郎君
二一〇	一奈良	一民	松尾四郎君	(五)			
二七九	二三重	一民	松田正一君	三七三	七京都	一民	福田關次郎君
一〇一	八岐阜	三政	牧野良三君	一三九	一兵庫	四政	古河和一郎君
三三一	三長野	一民	松本忠雄君	一〇四	三栃木	一政	船田中君
四九	五岩手	二政	松川昌藏君	七二	七静岡	一政	深澤豊太郎君
二三一	八山形	二政	松岡俊三君	四〇七	九岐阜	三民	古屋慶隆君
三〇五	五秋田	一民	町田忠治君	五一	八青森	一政	藤井達二君
一七一	七石川	二政	益谷秀次君	三一	六福井	第二	福田耕君
三〇三	七富山	二民	松村謙三君	三四八	一廣島	一民	古田喜三太郎君
二六一	四島根	二民	升田憲元君	七一	五佐賀	二政	藤生安太郎君
一二五	二和歌山	一政	松山常次郎君	二五三	八北海道	四民	深澤吉平君

附錄 第一 議員

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一九五	二山口	二政	國光	五郎君	二二四	一岐阜	一民	山田	道兄君
七五	五熊本	二國	藏原敏捷君	一〇三	八岩手	一政	八角	三郎君	
四六三	六鹿児島	一昭	藏園三四郎君	三九五	六鳥取	一民	山橋	儀重君	
(中)				三二二	一廣島	二民	山道	襄一君	
三〇二	八東京	七民	八並武治君	一九八	三香川	二民	矢野庄太郎君		
四三四	四東京	七昭	山口久吉君	二二三	六香川	二政	山下	谷次君	
一九四	七大阪	二政	山本芳治君	一三〇	七愛媛	三政	山村	豊次郎君	
一一〇	三新潟	一政	山本悌二郎君	四五七	八福岡	三昭	山崎	達之輔君	
二二八	八新潟	三政	山田又司君	二三八	三北海道	一民	山本	厚三君	
三七一	八埼玉	三民	山森利一君	(案)					
一九一	四茨城	二政	山崎猛君	二七八	一東京	四民	眞鍋	儀十君	
二五四	八茨城	三民	山本桑吉君	二二六	四東京	五政	牧野	健男君	
三三二	四奈良	一民	八木逸郎君	二二二	三東京	六政	前田	米藏君	
一五五	四愛知	二政	山田佐一君	三三三	四大阪	一民	枅谷	寅吉君	
一八四	二静岡	一政	山口忠五郎君	二八三	九大阪	六民	松田	竹千代君	
四四三	三静岡	二第一	山崎	三三五	九兵庫	二民	前田	房之助君	

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四三一	二	東京	第一	河野 密君
三五八	九	東京	二	駒井重次君
二七〇	六	東京	三	小坂梅吉君
二〇九	一	大阪	六	古藤増治郎君
二九三	二	神奈川	二	小泉又次郎君
一五六	四	神奈川	三	河野一郎君
一二四	二	兵庫	三	小林絹治君
二四〇	三	兵庫	四	小畑虎之助君
三七八	二	新潟	二	小柳牧衛君
三〇九	六	群馬	二	木村三郎君
二九四	三	愛知	一	小山松壽君
二〇六	八	愛知	四	小林 錦君
二九六	七	長野	二	小山邦太郎君
五	三	長野	二	小山 亮君
八五	八	岡山	二	小谷節夫君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一三三	八	山口	一	高良宗七君
四五八	六	山口	二	兒玉右二君
四〇八	七	和歌山	二	小山 谷藏君
七八	一	徳島	一	紅 露昭君
四〇〇	四	香川	一	小 西和君
二一	六	鹿児島	三	小林三郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一七	六	奈良	第二	江藤源九郎君
二二六	九	富山	一	寺島 權藏君
一一六	二	鹿児島	二	寺田 市正君
二九二	六	北海道	四	手代木隆吉君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四六一	九	東京	二	安部 磯雄君
九二	四	東京	三	安藤 正純君
四四六	二	東京	四	淺沼稻次郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四五三	九	東京	五	麻生 久君
七六	六	京都	三	芦 田 均君
九五	四	兵庫	三	青木雷三郎君
四三〇	二	埼玉	二	綾川武治君
四四七	八	群馬	一	青木 精一君
二九七	一	滋賀	一	青木 亮貫君
三二三	一	廣島	一	荒川五郎君
二七	七	徳島	二	秋 田 清君
二八六	二	大分	一	朝倉 每人君
一六九	三	大分	二	綾部健太郎君
二七五	八	佐賀	二	愛野時一郎君
七三	五	熊本	一	安達謙藏君
一八七	四	北海道	二	東 武君
三八八	一	北海道	二	淺川 浩君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二二一	二	長崎	二	佐保 畢雄君
三六七	九	新潟	二	佐藤 與一君
三五三	九	新潟	三	佐藤謙之輔君
一五一	三	茨城	三	佐藤洋之助君
二四九	七	静岡	三	坂下仙一郎君
七〇	二	宮城	一	佐々木家壽治君
八四	五	山形	一	佐藤 啓君
三七五	二	福井	一	齋藤 直橋君
三三〇	九	石川	二	櫻井兵五郎君
三〇六	五	島根	一	櫻 内 幸雄君
二三五	二	廣島	三	作田高太郎君
四四四	七	高知	二	佐竹 晴記君
三六八	一	宮崎	一	佐澤 定二君
三九三	八	北海道	一	澤田利吉君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二八五	七	大阪	二	木村吉太郎君
三八	四	兵庫	四	清瀬 一 郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二二	九	新潟	第一	北 吟 吉君
二六九	二	栃木	二民	木村 淺七君
三七九	六	岐阜	一民	清 寬君
三五	七	岐阜	二政	木村 作次郎君
三九八	六	長野	三民	木 下 信君
四二三	六	長野	三民	北原 阿智之助君
四八	六	岩手	一政	菊池 長右衛門君
四二二	六	青森	二民	菊池 良一君
一一	二	山形	第一	木村 武雄君
三六二	四	石川	二民	喜多壯一郎君
四一八	五	島根	一民	木村 小左衛門君
三五九	五	廣島	一昭	岸 田 正 記君
九九	九	大分	二政	清瀬 規矩雄君
九六	一	熊本	一政	木村 正義君
三	一	北海道	第四第二	北 勝太郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
七四	四	鳥取	國	由谷 義治君
五四	八	岡山	一政	行 吉 角 治君
四五二	七	京都	第一	水谷 長三郎君
四三九	一	新潟	第三	宅 正 一君
一六二	一	埼玉	一政	宮崎 崎 一君
二一四	六	茨城	一政	宮古 啓三郎君
一五二	五	靜岡	一政	宮本 雄一郎君
三八三	一	長野	三民	宮澤 胤 勇君
一八三	三	宮城	一政	宮澤 清 作君
二五一	二	福島	二民	濑 季 松君
三三九	四	岩手	二昭	三 鬼 鑑太郎君
四二六	一	鳥取	一民	三 好 榮次郎君
九八	二	廣島	三政	宮澤 裕君
二〇八	三	和歌山	二政	三 尾 邦 三君
一一一	六	香川	一政	宮 脇 長 吉君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一〇九	二	香川	二政	三 土 忠 造君
九四	六	熊本	二政	三 善 信 房君
一八	八	宮崎	第二	三 浦 虎 雄君
一三一	三	北海道	五政	三 井 德 實君
四一〇	一	東京	五民	斯 波 貞 吉君
四〇一	七	群馬	一民	清 水 留 三郎君
一五九	八	群馬	二政	篠 原 義 政君
三七六	八	千葉	一民	篠 原 陸 朗君
二二三	七	愛知	第一	椎 尾 辨 匡君
一二九	七	岩手	二政	志 賀 和 多利君
一六六	五	山形	二民	清 水 德 太郎君
三五六	七	秋田	一民	信 太 儀 右衛門君
五三	二	石川	一政	神 保 重 吉君
六二	五	富山	二政	島田 七郎右衛門君
二一一	四	島根	二政	島 田 俊 雄君
四一四	九	大分	二民	重 松 重 治君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三〇八	四	大阪	一民	一 松 定 吉君
三三三	九	神奈川	三民	平 川 松 太郎君
四一七	一	靜岡	一民	平 野 光 雄君
一九	三	山梨	第二	平 野 力 三君
三七〇	七	岐阜	三民	日 比 野 民 平君
二八四	八	福島	三民	比 佐 昌 平君
九三	五	廣島	二政	肥 田 琢 司君
二五七	五	東京	四民	森 兼 道君
一九〇	一	大阪	四政	森 田 政 義君
二五二	五	長崎	二昭	森 上 政 三君
三六一	三	群馬	二民	最 上 政 三君
二四七	八	栃木	二民	森 下 國 雄君
四五	二	滋賀	一政	森 幸 太 郎君
三八七	九	長野	四民	百 瀬 幸 太郎君
四六五	六	宮城	一昭	守 屋 榮 夫君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四二八	五	福島	一民	栗山博君	三八六	三	三重	二民	角源泉君
四五六	一	廣島	二昭	望月圭介君	六六	四	愛知	五國	鈴木正吾君
五七	四	沖繩	政	盛島明長君	一六	二	愛知	五第二	杉浦武雄君
(セ)	一八二	八	愛知	一政	一〇八	三	宮城	一政	菅原傳君
(す)	四六〇	四	東京	六第一	一九三	九	福島	二政	助川啓四郎君
四六二	三	大阪	五第二	杉山元治郎君	一〇七	三	福島	三政	鈴木辰三郎君
二四二	三	埼玉	一民	鈴木康太郎君	二九一	四	福岡	四民	末松偕一郎君
					一四〇	八	福岡	四政	末次虎太郎君

(備考) 一、黨派欄中民ハ立憲民政黨、政ハ立憲政友會、昭ハ昭和會、第一ハ第一控室、第二ハ第二控室、國ハ國民同盟、無ハ無所屬ナリ

議員ノ應召及請暇

本期議會召集當日召集ニ應シタル者四百二十一名ニシテ其ノ後召集ニ應シタル者三十六名、召集ニ應セザリシ者九名トス
召集ニ應シタル年月日及人員ヲ表示スレハ左ノ如シ

議員應召集

應召年月日	人員	應召年月日	人員
昭和十一年五月一日(召集當日)	四二一	昭和十一年五月十二日	一
同年同月二日	三	同年同月十六日	一
同年同月四日	一七	同年同月十八日	一
同年同月五日	四	同年同月二十日	二
同年同月六日	二	同年同月二十一日	一
同年同月七日	一	同年同月二十三日	一
同年同月九日	一	計	四五七
同年同月十一日	一		

(備考) 一、召集ニ應セザリシ者ハ服部米次郎君、田中源君、高野喜六君、津雲國利君、南條徳男君、上塚司君、久原房之助君、河野密君及安達謙藏君ナリ

本期議會ニ於テ請暇ヲ爲シタル者二十五名アリ
請暇日數ニ依リ之ヲ表示スレハ左ノ如シ

請暇日數表

日數	一人平均	延日數	延人員	一人平均	延日數	延人員
一日間	一	五日間	五	三日	三	三人
二日間	八	七日間	四	二日	二	二人
三日間	一三	十二日間	一	一日	一	一人
四日間	一					
五日間						
延日數	一三二	延日數	三二	延日數	一三二	延日數
延人員	三二	延人員	三二	延人員	三二	延人員
一人平均	五日弱	一人平均	五日弱	一人平均	五日弱	一人平均

本期議會ニ於ケル議員控室左ノ如シ

- 第一控室
- 第二控室
- 第三乃至第九控室
- 第十控室
- 第十一乃至第十六控室
- 第十七控室

- 第一控室(社會大衆黨及無所屬)
- 第二控室(無所屬)
- 立憲民政黨
- 國民同盟
- 立憲政友會
- 昭和會

第二 國務大臣及政府委員

本期議會ニ於ケル國務大臣及政府委員ノ氏名左ノ如シ

國務大臣

內閣總理大臣	廣田弘毅君
海軍大臣	永野修身君
陸軍大臣	寺內壽一君
司法大臣	林 賴三郎君
大藏大臣	馬場 鑓一君
鐵道大臣	前田米藏君
內務大臣	潮 惠之輔君
農林大臣	島田 俊雄君
逓信大臣	賴母木桂吉君
拓務大臣	永田秀次郎君
文部大臣	平生 鈺三郎君

政府委員

商工大臣 小川郷太郎君
 外務大臣 有田八郎君
 政府委員
 內閣書記官長 藤沼庄平君
 法制局長官 次田大三郎君
 法制局參事官兼 樋貝詮三君
 內閣恩給局長 森山銳一君
 法制局參事官 森山銳一君
 資源局長官兼 松井春生君
 內閣東北振興事務局局長 吉田茂君
 內閣調查局長官 青木一男君
 對滿事務局次長 高瀬武寧君
 關東局事務官
 外務省所管事務政府委員
 外務政務次官 猪野毛利榮君
 外務參與官 松山常次郎君

(昭和十一年五月六日被仰付)

(同)

(同)

(昭和十一年五月八日被仰付)

外務省東亞局長 桑島主計君
 外務省歐亞局長 東郷茂德君
 外務省通商局長 松嶋鹿夫君
 外務省文化事業部長 岡田兼一君
 外務書記官 岡本季正君
 內務省所管事務政府委員
 內務政務次官子爵鍋島直繩君
 內務參與官男爵肝付兼英君
 內務省神社局長 館哲二君
 內務省地方局長 大村清一君
 內務省警保局長 萱場軍藏君
 內務省土木局長 岡田文秀君
 內務省衛生局長 挾間茂君
 內務書記官 兒玉九一君
 內務事務官 入江誠一郎君

昭和十一年五月二日被仰付
 昭和十一年五月八日被仰付
 昭和十一年五月十八日被仰付
 昭和十一年五月十八日被免

社會局長 廣瀬久忠君
 社會局部長 赤松小寅君
 社會局部長 山崎巖君
 北海道廳長 池田清君
 北海道廳部長 中村忠充君

(昭和十一年五月十四日被仰付)

(同)

大藏省所管事務政府委員

大藏政務次官 中島彌團次君
 大藏參與官 丹下茂十郎君
 大藏省主計局長 賀屋興宣君
 大藏省主稅局長 山田龍雄君
 大藏省理財局長 廣瀬豐作君
 大藏省銀行局長 和田正彦君
 大藏省外國爲替管理部長 荒川昌二君
 大藏書記官 江口順一君
 大藏書記官 深田養一君

(昭和十一年五月八日被仰付)

(同)

(昭和十一年五月六日被仰付)

大藏書記官 菅村道太郎君
 大藏書記官 入江昂君
 大藏書記官 谷口恒二君
 大藏書記官 木内四郎君
 大藏書記官 松隈秀雄君
 預金部長 金子隆三君
 營繕管財局理事 關原忠三君
 專賣局長 荒井誠一郎君

(昭和十一年五月十二日被仰付)

(昭和十一年五月十三日被仰付)

(昭和十一年五月十二日被仰付)

(昭和十一年五月八日被仰付)

陸軍省所管事務政府委員

陸軍政務次官 子爵立見豐丸君
 陸軍次官 梅津美治郎君
 陸軍主計總監 平手勘次郎君
 陸軍少將 磯谷廉介君
 陸軍省法務局長 大山水文雄君
 陸軍一等主計正 栗橋保正君

海軍省所管事務政府委員

海軍 次官 長谷川 清君
 海軍 參事官 永田善三郎君
 海軍 主計中將 村上春一君
 海軍 中將 豐田副武君
 海軍 主計大佐 石黒利吉君

司法省所管事務政府委員

司法 政務次官 野田俊作君
 司法 參事官子爵 秋月種英君
 司法省 刑事局長 岩村通世君
 司法 書記官 森山武市郎君
 司法 書記官 齋藤直一君

(昭和十一年五月六日被仰付)

文部省所管事務政府委員

文部 政務次官 山本厚三君
 文部 參事官 作田高太郎君

文部省專門學務局長

赤間 信義君

文部省普通學務局長

河原 春作君

文部省實業學務局長

菊池 豐三郎君

文部省社會教育局長

男爵 山川 建君

文部省思想局長

伊東 延吉君

文部省圖書局長

芝田 徹心君

文部 書記官

服部 續君

農林省所管事務政府委員

農林 政務次官

田邊 七六君

農林 參事官

小林 絹治君

農林省農務局長

戶田 保忠君

農林省水產局長

原 辰二君

農林省畜產局長

田淵 敬治君

農林省蠶絲局長

井野 碩哉君

農林省米穀局長

荷見 安君

(昭和十一年五月二十一日被仰付)

- 農林省經濟更生部長 小平權一君
- 農林書記官 周東英雄君
- 農林書記官 三浦一雄君
- 農林書記官 重政誠之君
- 商工省所管事務政府委員
- 商工政務次官 池田秀雄君
- 商工參與官 寺島權藏君
- 商工省商務局長 村瀬直養君
- 商工省工務局長 岸信介君
- 商工省鑛山局長 小島新一君
- 商工省貿易局長 寺尾進君
- 商工省保險局長 大貝晴彦君
- 商工書記官 新倉利廣君
- 商工書記官 辻謹吾君
- 商工書記官 小金義照君

(昭和十一年五月十二日被仰付)

- 臨時產業合理局事務官 後藤保清君
- 逓信省所管事務政府委員
- 逓信政務次官 前田房之助君
- 逓信參與官 多田滿長君
- 逓信省郵務局長 伊勢谷次郎君
- 逓信省電務局長 平澤要君
- 逓信省工務局長 梶井剛君
- 逓信省電氣局長 大和田悌二君
- 逓信省管船局長 小野猛君
- 逓信省航空局長 片岡直道君
- 逓信省經理局長 進藤誠一君
- 貯金局長 武田泰郎君
- 簡易保險局長 猪熊貞治君
- 鐵道省所管事務政府委員
- 鐵道政務次官 田子一民君

- 鐵道參與官 星島二郎君
- 鐵道省監督局長 前田穰君
- 鐵道省運輸局長 新井堯爾君
- 鐵道省建設局長 河原直文君
- 鐵道省工務局長 平井喜久松君
- 鐵道省經理局長 工藤義男君
- 拓務省所管事務政府委員
- 拓務政務次官 男爵 稻田昌植君
- 拓務參與官 林路一君
- 拓務省管理局長 萩原彦三君
- 拓務省殖產局長 北島謙次郎君
- 拓務省拓務局長 高山三平君
- 拓務書記官 小河正儀君
- 拓務書記官 副島勝君
- 朝鮮總督府政務總監 今井田清德君

(昭和十一年五月十三日被仰付)

- 朝鮮總督府財務局長 林繁藏君
- 臺灣總督府總務長官 平塚廣義君
- 臺灣總督府財務局長 嶺田丘造君
- 樺太廳長官 今村武志君
- 南洋廳長官 林壽一夫君

(備考)

政府委員被仰付ノ日附記入ナキモノハ孰レモ本期議會本院成立當日即チ昭和十一年五月二日第六十九回帝國議會政府委員被仰付

第三委員

附錄 第二 國務大臣及政府委員

第三委員

第一 全院委員

委員長 熊谷五右衛門君

第二 常任委員

豫算委員

委員長 川崎 克君

理事 工藤鐵男君補闕 英明君

理事 手代木隆吉君

理事 佐保畢雄君

理事 小林三郎君

理事 清水留三郎君

理事 船田 中君

理事 石井三郎君

理事 龜井貫一郎君

理事 中 亥歲男君

理事 小林 錡君

高松長三君 宮澤胤勇君 眞鍋 勝君 若宮貞夫君

植原悅二郎君 木村正義君 畔田 明君

第二部

堤 康次郎君 三好榮次郎君 松田喜三郎君補闕 清水德太郎君 武田德三郎君

山口忠五郎君補闕 深澤豐太郎君 佐保畢雄君 石井三郎君

第三部

中 亥歲男君 松本忠雄君 砂田 重政君 菅原 傳君

佐藤洋之助君 船田 中君 中野正剛君補闕 杉浦武雄君補闕 江藤源九郎君

第四部

渡邊 鏡藏君 漢那憲和君 手代木隆吉君 工藤鐵男君

東武君補闕 金光庸夫君補闕 松村光三君 杉山元治郎君 由谷義治君補闕 風見 章君

第五部

中村三之丞君 紫安新九郎君 川崎 克君 中島知久平君

森 肇君 金井正夫君 龜井貫一郎君

第六部

武 富 濟君 芦田 均君 田尻生五君 宮脇長吉君

永田良吉君 高橋熊次郎君 小林三郎君

附錄 第三委員

第七部

松村謙三君 清水留三郎君
 西村茂生君 山本芳治君
胎中補右衛門君補闕
 清瀬規矩雄君其ノ補闕
 中村嘉壽君
小山谷藏君補闕
 堀内良平君
 大石大君補闕
 伊豆富人君

第八部

添田敬一郎君 勝正憲君
 八角三郎君 大口喜六君
 篠原陸朗君
松井郡治君補闕
 服部英明君
 小林 錡君

第九部

依孫一君 櫻井兵五郎君
 野田文一郎君 助川啓四郎君
平川松太郎君補闕
 戸井嘉作君
 片山哲君補闕
 松本次一郎君
 古屋慶隆君

決算委員

委員長 立川太郎君

理事 松田正一君 理事 氏家清君 理事 福田關次郎君

理事 小山田義孝君 理事 服部岩吉君

第一部

佐澤定二君 木下信君 日比野民平君 服部岩吉君

田万清臣君

第二部

小柳牧衛君 松田正一君
小笠原八十美君補闕
 古河和一郎君

國光五郎君

第三部

高島兵吉君 角源泉君 小畑虎之助君

高岡大輔君

第四部

福田關次郎君 吉植庄亮君 立川太郎君

川村保太郎君

第五部

松川昌藏君 島田七郎右衛門君 石井徳久次君

岡幸三郎君

第六部

今給黎誠吾君

飯田助 夫君
池崎忠孝君補闕
小林三郎君

第七部

小坂梅吉君
橋本祐幸君
田尻藤四郎君
井上知治君

第八部

土屋寬君
木村作次郎君
山村豐次郎君
伊藤武七郎君

第九部

伊豆富人君
山村豐次郎君
井上知治君
出井兵吉君

請願委員

委員長 坂東幸太郎君
理事 戶澤民十郎君
理事 林平馬君
理事 西田郁平君

理事 林讓治君 理事 宮澤清作君

第一部

古田喜三太君
中村又一君
高橋泰雄君
松本次一郎君補闕
川俣清音君

第二部

前田幸作君
森幸太郎君
佐々木家壽治君
中村嘉壽君
林讓治君

第三部

鶴下惣市君
鈴木康太郎君
田中邦治君
坂東幸太郎君
小高長三郎君

第四部

宮澤清作君
山田佐一君
河野一郎君
永山忠則君
陣軍吉君

第五部

鈴木正吾君
西田郁平君
田中彌助君
肥田琢司君
岡田伊太郎君

佐藤 啓君

第六部

中崎 俊秀君

長野 高一君

林 平馬君

倉成庄八郎君

菊池長右衛門君

第七部

西村金三郎君

坂下仙一郎君

原 玉重君

木村吉太郎君

加藤賢司君

第八部

森下國雄君

戶澤民十郎君

水谷長三郎君

小谷節夫君

中原謹司君

第九部

植村嘉三郎君

片岡恒一君

奥山龜藏君

佐藤謙之輔君

尾崎重美君

懲罰委員

委員長 濱野徹太郎君

理事 服部英明君 理事 內藤正剛君 理事 中井一夫君

第一部

小野 廉君 宮崎 一君 中井 一夫君

第二部

中村梅吉君 淺川 浩君 神保重吉君

第三部

內藤正剛君 勝田永吉君 田村秀吉君

第四部

本田英作君 牧野賤男君 登坂良作君

第五部

森 兼道君 仲井間宗一君 濱野徹太郎君

第六部

愛野時一郎君 藏園三四郎君 佐竹晴記君

第七部

附錄 第三委員

志賀和多利君

沖

藏君

名川侃市君

第八部

服部英明君補闕
川合直次君其ノ補闕

元君

西川貞一君

伊禮肇君

第九部

比佐昌平君

加藤鏝五郎君

飯村五郎君

建議委員

委員長 青木雷三郎君

理事 真鍋儀十君

理事 東條貞君

第一部

松尾四郎君

真鍋儀十君

小野寅吉君

綾川武治君

岡崎憲君

第二部

長井源君

村岡吾一君

中田儀直君

伊東岩男君

馬場元治君

第三部

中村不二男君

伊藤東一郎君

玉置吉之丞君

松木弘君

平野力三君

第四部

片山一男君

青木雷三郎君

川島正次郎君

盛島明長君

山口久吉君

第五部

土屋清三郎君

生方大吉君

石坂養平君

宮本雄一郎君

藏原敏捷君

第六部

北原阿智之助君

信太儀右衛門君

村上國吉君

山本彙吉君

山森利一君

第七部

内藤久一郎君

大門恒作君

服部米次郎君

富吉榮二君

附錄 第三委員

石坂 繁君

第八部

深澤 吉平君 行 吉角 治君

山田 又司君

末次虎太郎君

菅野善右衛門君

第九部

原 淳一郎君 大島 寅吉君

東 條 貞君

大本貞太郎君

川口 義久君

第三 特別委員

米穀自治管理法(政府提出)外二件委員

米穀統制法中改正法律案(政府提出)

穀共同貯藏助成法案(政府提出)

委員長 東 武君

理事 松村謙 三君 理事 川崎末五郎君 理事 佐藤謙之輔君

理事 角 源 泉君 理事 石坂養平君 理事 三善信房君

理事 島田七郎右衛門君

高橋 守平君

松村謙 三君

川崎末五郎君

岡田春夫君補闕
內藤正剛君其ノ補闕
中村不二男君

澤田 利吉君

伊藤武七郎君補闕
中村梅吉君

池本甚四郎君

長井 源君

岡田喜久治君

服部崎市君

山森利一君

佐藤謙之輔君

渡邊 鏡藏君

木村淺七君

喜多壯一郎君

角 源 泉君

胎中楠右衛門君

中田儀直君

三善信房君

國光五郎君

牧野 良三君

田村實君

東 武君

石坂養平君

小笠原八十美君

沖 藏君

島田七郎右衛門君

上田孝吉君

立川 太郎君

平野力三君

北 勝太郎君

森 肇君

永山 忠則君

三宅正一君

富吉榮二君

野中徹也君

産前處理統制法案(政府提出)外二件委員

蠶絲業組合法中改正法律案(政府提出)

蠶絲業法中改正法律案(政府提出)

委員長 百 瀨 渡君

理事 齋藤直橘君 理事 信太儀右衛門君 理事 小野寅吉君

理事 松川昌藏君 理事 宮本雄一郎君

百 瀨 渡君 齋藤直橘君 信太儀右衛門君 伊藤東一郎君

附錄 第三 委員

- 小野寅吉君 淺季松君 愛野時一郎君 朝倉每人君
- 大門恒作君 佐藤與一君 生方大吉君 宮澤胤勇君
- 山村豐次郎君 井上知治君 坪山德彌君 森幸太郎君
- 深澤豐太郎君 松川昌藏君 鈴木辰三郎君補闕 山田又司君
- 菅野善右衛門君 宮本雄一郎君 出井兵吉君 西川貞一君 小山亮君
- 守屋榮夫君 山崎劔二君 鈴木正吾君

昭和六年法律第四十號中改正法律案(重要産業ノ統制ニ關スル件)(政府提出)外一件委員

自動車製造事業法案(政府提出)

- 委員長 野村嘉六君
- 理事 津原武君 理事 淺川浩君 理事 堀内良平君
- 理事 田中亮一君 理事 玉置吉之丞君
- 野村嘉六君 岡崎久次郎君 坂下仙一郎君 津原武君
- 柏木清治君 淺川浩君 堀内良平君 清寬君
- 長野高一君 松井野治君補闕 古田喜三太君 一松定吉君
- 工藤十三雄君 植原悅二郎君 加藤錄五郎君 瀨川嘉助君

- 清瀨規矩雄君 田中亮一君 本多貞次郎君 立川平君
- 松村光三君 玉置吉之丞君 中野正剛君補闕 三浦虎雄君 笠井重治君
- 岸田正記君 片山哲君 伊禮肇君

商工組合中央金庫法案(政府提出)外四件委員

重要輸出品取締法案(政府提出)
輸出絹織物取締法中改正法律案(政府提出)
輸出組合法中改正法律案(政府提出)

昭和九年法律第四十五號中改正法律案(貿易調節及通商擁護ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)

- 委員長 増田義一君
- 理事 川橋豐治郎君 理事 松田正一君 理事 大島寅吉君
- 理事 大本貞太郎君 理事 高橋泰雄君補闕 玉置吉之丞君
- 増田義一君 川橋豐治郎君 田中邦治君 古藤増治郎君
- 小坂梅吉君 渡邊玉三郎君 松田正一君 大島寅吉君
- 片山一男君 富田等平君 野田武夫君 本田英作君
- 菊池長右衛門君補闕 玉置吉之丞君 大本貞太郎君 石井徳久次君 高橋泰雄君補闕 芦田均君
- 山田佐一君 倉成庄八郎君 田中彌助君補闕 倉元要一君其ノ補闕 宮本雄一郎君 中野治介君補闕 木村作次郎君

神保重吉君 登坂良作君補闕 前田幸作君補闕 北勝太郎君 今井新造君

今給黎誠吾君 水谷長三郎君 伊豆富人君

東北興業株式會社法案(政府提出)外一件委員

東北振興電力株式會社法案(政府提出)

委員長 添田敬一郎君 理事 清水德太郎君 理事 信太儀右衛門君

理事 內ヶ崎作三郎君 理事 清水德太郎君 理事 信太儀右衛門君

理事 菅野善右衛門君補闕 理事 小山田義孝君

添田敬一郎君 內ヶ崎作三郎君 清水德太郎君 信太儀右衛門君

栗山博君 土田莊助君 氏家清君 鶴見祐輔君

奥山龜藏君 菊池良一君 林平馬君 工藤鐵男君補闕

菅野善右衛門君補闕 鈴木辰三郎君 佐々木家壽治君 松井郡治君

小山田義孝君 藤井達二君 八角三郎君 熊谷直太君

石坂豐一君 岡田伊太郎君 綾部健太郎君 紅露昭君

三鬼鑑太郎君 川俣清音君 田川大吉郎君 木村武雄君

鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)外二件委員

岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業ニ屬スル
資產買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

江常軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲
公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

委員長 名川侃市君 理事 大島寅吉君 理事 中井川浩君補闕

理事 植村嘉三郎君 理事 肥田琢司君 理事 一柳仲次郎君

理事 勝又春一君 理事 肥田琢司君 理事 中井川浩君補闕

一柳仲次郎君 堀內良平君 中村又一君 植村嘉三郎君

清水德太郎君 中井川浩君 大島寅吉君 片山一男君

鶴見祐輔君 荒川五郎君 西村金三郎君 田村秀吉君

志賀和多利君 尾崎天風君 綾部健太郎君 行吉角治君

生田和平君 土倉宗明君補闕 松本弘君補闕 瀨川嘉助君

川島正次郎君補闕 肥田琢司君 名川侃市君 北勝太郎君 岡幸三郎君

藏園三四郎君 松本次一郎君 石坂繁君

昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)外十八件委員

昭和十一年勅令第七號(災害善後ニ關スル經費支辨ノ爲
公債發行ニ關スル件)(承諾ヲ求ムル件)

昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ
屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案(政府提出)

昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)
 昭和九年法律第七號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債發行ニ關スル件)(政府提出)
 對支文化事業特別會計法中改正法律案(政府提出)
 關稅定率法中改正法律案(政府提出)
 大正十三年法律第二十四號中改正法律案(醫藥品等ノ輸入稅ニ關スル件)(政府提出)
 昭和七年法律第四號中改正法律案(輸入稅ノ從量稅率ニ關スル件)(政府提出)
 製鐵業獎勵法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
 日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案(政府提出)

出、貴族院送付)
 昭和九年度第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
 昭和九年度特別會計第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
 昭和九年度特別會計豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
 昭和九年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
 自昭和十年四月 昭和十年第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
 自昭和十年四月 昭和十年特別會計第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
 自昭和十年四月 昭和十年特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

- 委員長 金光庸 夫君
 理事 駒井重次君補闕
 理事 眞鍋 勝君 理事 矢野庄太郎君
 理事 木村正義君 理事 田尻生五君
 一宮房治郎君 松本忠雄君
 鈴木康太郎君 矢野庄太郎君
 南雲正朔君補闕 岡本實太郎君補闕
 松田正一君 林平馬君
 金光庸 夫君 武田德三郎君
 岡本實太郎君補闕
 眞鍋 勝君 森兼道君
 內藤久一郎君補闕 池田清秋君
 大島寅吉君 池田清秋君
 仲井間宗一君 中亥歲男君
 木村正義君 中井一夫君

高良宗七君 岩瀬亮君
 篠原義政君補闕
 石坂豐一君 末次虎太郎君
 豐田收君補闕 綾川武治君 川村保太郎君

田尻生五君 倉元要一君
 笠井重治君 池崎忠孝君
 藤原敏捷君補闕 鈴木正吾君

土地貸賃價格改訂法案(政府提出)外十件委員

農馬法中改正法律案(政府提出)
 土地貸賃價格改訂法施行ニ伴フ耕地整理法ノ特例ニ關スル法律案(政府提出)
 國稅徵收法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
 農村負債整理組合法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
 小作法案(杉山元治郎君提出)

產業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案(山崎猛君外四名提出)
 不動産融資及損失補償法中改正法律案(山崎猛君外四名提出)
 市制中改正法律案(坂東幸太郎君外一名提出)
 町村制中改正法律案(坂東幸太郎君外一名提出)
 北海道會法中改正法律案(坂東幸太郎君外一名提出)

- 委員長 八田宗吉君
 理事 飯田助夫君 理事 佐藤謙之輔君
 高田松平君補闕 村上國吉君 飯田助夫君
 植村嘉三郎君補闕 林平馬君 西田郁平君補闕
 岡本實太郎君其ノ補闕
 淺川浩君其ノ補闕
 篠原陸朗君
 吉植庄亮君補闕
 佐々木家壽治君
 八田宗吉君 佐々木家壽治君
 西村金三郎君補闕
 土田莊助君其ノ補闕
 西村金三郎君其ノ補闕
 池本甚四郎君 本多眞喜雄君
 仲西三良君 佐藤謙之輔君
 古河和一郎君 助川啓四郎君

蔭山 貞吉君 大石 倫治君
陣軍 吉君 黒田 壽男君

三善信房君補闕
小笠原八十美君

西川貞一君補闕
小川山 亮君

重要肥料業統制法案(政府提出)委員

委員長 西村丹治郎君

理事 矢野庄太郎君

村上國吉君補闕
北原阿智之助君其ノ補闕
松田喜三郎君
北原阿智之助君補闕
松田喜三郎君

西村丹治郎君

村上國吉君補闕
土屋 寬君

理事

河野 一郎君

中野邦一君

岡本實太郎君

矢野庄太郎君

寺田 市正君

助川啓四郎君

岩 瀨 亮君

河野 一郎君

服部 岩吉君

鶴 惣市君

加藤 賢司君

平野 力三君

守屋 榮夫君

佐竹晴記君補闕

石坂繁君補闕

野中 徹也君

守屋 榮夫君

航路統制法案(政府提出)外一件委員

航空法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

委員長 戸澤民十郎君

理事 最上 政三君

理事 清

戸澤民十郎君

濱野 徹太郎君

最上 政三君

平野光雄君補闕

淺川 浩君

寬君 理事

中井 一夫君

木村吉太郎君補闕

池田 清秋君

片岡恒一君補闕
朝倉 每 人君

人君

尾崎 重美君

清 寬君

中井 一夫君

小谷節夫君補闕
中村 嘉壽君

船田中君補闕
永田 良吉君

八角 三郎君

盛島 明長君

紅 露 昭君

三浦虎雄君補闕
小山 亮君

金井正夫君補闕
春名 成章君

岡崎 憲君

高岡 大輔君

臺灣拓殖株式會社法案(政府提出)外一件委員

臺灣私設鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

委員長 櫻井兵五郎君

理事 眞鍋 勝君

理事 木下 信君

川島正次郎君

櫻井兵五郎君

眞鍋 勝君

佐藤 正君

粟山 博君

木下 信君

松尾 四郎君

中村不二男君

中村又一君補闕
中川 重春君

川島正次郎君

佐藤洋之助君

東條 貞君

宮古啓三郎君

肥田 琢司君

片山秀太郎君

東 郷 實君

岡 幸三郎君

井阪 豐光君

鈴木文治君

朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)委員

委員長 牧山 耕藏君

附錄 第三 委員

- 理事 森下國雄君 理事 喜多壯一郎君補闕
 牧山耕藏君 小山倉之助君 森下國雄君 小畑虎之助君
 喜多壯一郎君補闕 岡田春夫君補闕 信太儀右衛門君 山森利一君 松尾四郎君
 小山谷藏君 工藤十三雄君 小谷節夫君 肥田琢司君
 岩瀬亮君 片山秀太郎君 末次虎太郎君 三浦虎雄君補闕
 西村茂生君 鈴木文治君補闕 平野力三君
 綾川武治君 川俣清音君

大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)外七件委員

思想犯保護觀察法案(政府提出)

昭和十一年勅令第十八號(一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルノ件)(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)

昭和十一年勅令第二十一號(東京陸軍軍法會議ニ關スル件)(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)

辯護士法中改正法律案(宮澤清作君外五名提出)
 計理士法中改正法律案(古河和一郎君外二名提出)
 家事調停法案(宮澤胤勇君外四名提出)
 衆議院議員選舉法中改正法律案(杉山元治郎君提出)

- 委員長 岩崎幸治郎君
 理事 西田郁平君補闕
 池田清 秋君 理事 內藤正剛君 理事 小林 錡君
 武富 濟君 松井郡治君補闕 八並武治君補闕 一松定吉君其ノ補闕
 本多眞喜雄君 池田清 秋君 高松長三君

- 原 玉重君 西田郁平君補闕 一松定吉君其ノ補闕 原夫次郎君其ノ補闕
 宮崎 一君 藤井達二君補闕 宮澤清 作君 內藤正剛君 松木弘君補闕 砂田重政君其ノ補闕 立川 平君 西岡竹次郎君補闕 松木弘君其ノ補闕 古河和一郎君
 岩崎幸治郎君 久山知之君補闕 名山川 侃 市君 森兼道君補闕 中村梅吉君其ノ補闕 野田文一郎君
 飯村五郎君 黒田壽男君補闕 加藤 勘 十君 小林 錡君 馬場元治君補闕 江藤源九郎君

不穩文書等取締法案(政府提出)外七件委員

職業紹介法中改正法律案(政府提出)
 總動員祕密保護法案(政府提出)
 退職積立金及退職手當法案(政府提出)
 勞働組合法案(塚本重藏君提出)

母子扶助法案(片山哲君提出)
 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(坂東幸太郎君外八名提出)
 軍事救護法中改正法律案(升田憲元君提出)

- 委員長 熊谷直太君
 理事 小柳牧衛君補闕
 益谷秀次君補闕 次君 理事 川崎末五郎君 理事 齋藤直橋君補闕
 益谷秀 犬養 健君 中山 福藏君
 岡本實太郎君 服部英明君 勝田永吉君 一宮房治郎君補闕 飯塚春太郎君其ノ補闕 一宮房治郎君其ノ補闕 飯塚春太郎君其ノ補闕 一宮房治郎君

岡崎久次郎君補闕
堀内良平君其ノ補闕
田村秀吉君

小柳牧衛君補闕
小山倉之助君

橋本祐幸君補闕
中村又一君

鶴澤宇八君補闕
渡邊鏡藏君其ノ補闕
原夫次郎君其ノ補闕
福田關次郎君其ノ補闕
原夫次郎君

川崎末五郎君

齋藤直橋君補闕
中山福藏君

田村秀吉君補闕
淺沼稻次郎君其ノ補闕
岡田喜久治君

原夫次郎君補闕
川橋豐治郎君其ノ補闕
松田正一君其ノ補闕
一松定吉君

熊谷直太君

益谷秀三君其ノ補闕
松村光三君其ノ補闕
益谷秀次君

犬養健君

牧野騰男君補闕
木村正義君

本多貞次郎君補闕

砂田重政君其ノ補闕
山崎猛君

加藤瞭五郎君

宮澤裕君

田尻生五君

渡邊泰邦君

福田耕君

山口久吉君補闕
綾川武治君

塚本重藏君補闕

田万清臣君補闕
淺沼稻次郎君

藏原敏捷君

大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(井阪豐光君提出)

委員長 岡田伊太郎君

大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(東武君外四名提出)

理事 一柳仲次郎君 理事 手代木隆吉君 理事 東條貞君
一柳仲次郎君 堀内良平君 大島寅吉君 手代木隆吉君

南雲正朔君 森下國雄君 中村梅吉君 眞鍋勝君
岡田伊太郎君 東條貞君 登坂良作君 勝又春一君
佐々木家壽治君 尾崎天風君 藤井達二君 北勝太郎君
井阪豐光君 川村保太郎君

百貨店法案(枅谷寅吉君外七名提出)外二件委員

恩給法中改正法律案(山下谷次君外一名提出)

委員長 斯波貞吉君

理事 枅谷寅吉君 理事 眞鍋儀十君 理事 小高長三郎君
斯波貞吉君 枅谷寅吉君 眞鍋儀十君 野田文一郎君
服部崎市君 古田喜三太君 川橋豐治郎君 小高長三郎君
牧野賤男君 立川太郎君 瀨川嘉助君 神保重吉君
中井一夫君 高良宗七君 前田幸作君 岸田正記君
水谷長三郎君 石坂繁君

開院式 勅語奉答文起草ノ件委員

委員長 八木逸郎君

附錄 第三 委員

理事 宮古啓三郎君

八木逸郎君 菊池良一君

漢那憲和君

中崎俊秀君

本多真喜雄君

北原阿智之助君

高木彖太郎君

宮古啓三郎君

工藤十三雄君

東武君

岩崎幸治郎君

倉元要一君

山下谷次君

安藤正純君

椎尾辨匡君

守屋榮夫君

安部磯雄君

大竹貫一君

第四 兩院協議委員

臺灣拓殖株式會社法案(政府提出)兩院協議委員

議長 永井柳太郎君

副議長 若宮貞夫君

永井柳太郎君

田中武雄君

堤康次郎君

高田耘平君

櫻井兵五郎君

若宮貞夫君

太田正孝君

川島正次郎君

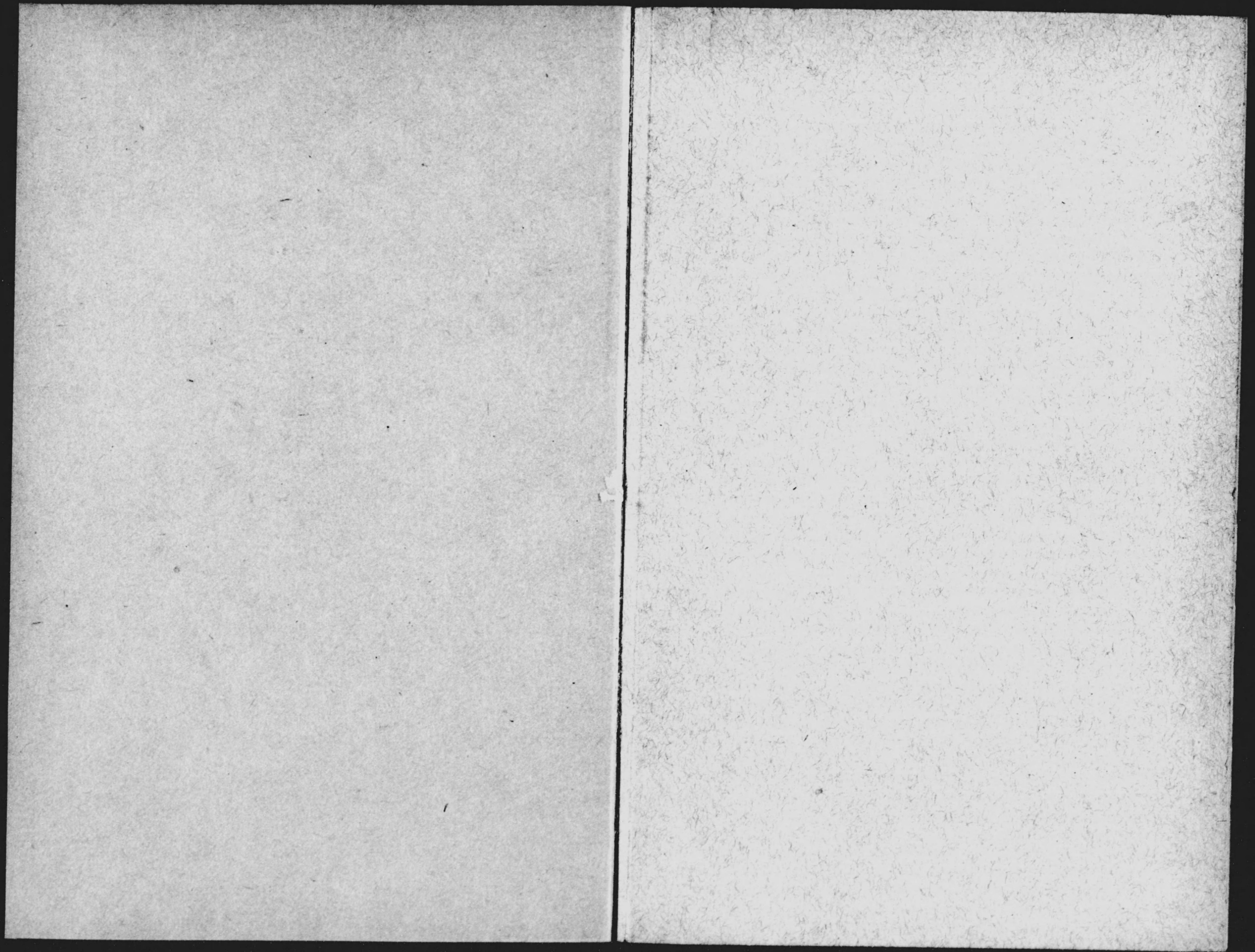
山崎猛君

井阪豊光君

昭和十一年九月八日印刷
昭和十一年九月十日發行

衆議院事務局

印刷者 內閣印刷局



14.3
5L

